

日本書紀神代根國史

一

リ波5
657
1



門リ試5
番 657
卷 1-8

古興路美迺草荷

自序



洛の乾愛宕此靈山と云ふ丁の高山之麓に小山あり試の坂と稱す
但し試の坂小山といへども至極の嶮岨なり故に嶮岨と云ふ
登山乃何れハ誰しも心易く絶頂軒遇突智の神社小并禮と遂
ら終極一にまは彼の試の坂なくんハ非や有る先試の坂と最初
小并一而後本書此註を為し一備試の坂とい各何事なり生きて
何事止り終ふや何事為す生きて何事死すや亦生きて死
す一魂なりこれハ生きて生きて死して死して後魂
何事小ありは是れと云ふ生きたぬ先生量劫を死して後生量劫
生きたる事理の当然之方一是と迷ふ處に有る心を生きたる死
を死きたるに僅五十年ハ八十年天地の壽小此ハ云ふ所の

有りも疾し其間三變の世を欲作らば小果を以て実小を念之多くの人
斯の如くも是ハ元を知りて其元とい我々々前世を介小を非そ
五穀禽獸魚鼈北菜等之其五穀禽獸魚鼈野菜を親々の食て
靈液となり其靈液一元水となりて母ノ子宮小止り此體を結ひ生
して果たり其ハ其五穀禽獸魚鼈野菜の品物殊小五穀野菜ハ
非情小して天地其儘の靈物之其を春を仁夏を禮秋を義冬を
を智其四季の中土用を信之斯仁義禮智信を靈味小傳へ之
亦禽獸魚鼈等を有情といハ之も私ならず天地其儘の仁義禮
智信を同く靈味小傳不在斯靈物人間小化生其ハ弥以テ人間ハ
仁義禮智信而已も有屈れを人間小私何有天地の如く六
行の道を以て其私とい天理を永傳勝手小曲る之故一凶事
絶も是も世小連まて代々小甚むなりハ人間小生ま出ぬハ迷ひ小

生と出—之猶万物天地の中小生して天地の儘の道を行くハ先天ハ
暑寒の如く日輪北—進んハ夏南小退けハ冬之又日東天小出まハ
昼西天小没まハ夜之次小月十五夜小満晦日小微け次小潮の干
満日々兩度ツナリ風雨霜雪雷震等小至り開闢以來年々歳々
同一事を限りもなく為る天地の道之万物をま小連まを非情ハ花
咲稔りても枯ましく年々歳々相同し有情を生まるハ死し生まる
を死も其生死の中盛んなる時子と生し衰へて死を此外昼夜
の起卧呼吸の出入食事喰迹も刻々無量殺の目扣き小むり
統て年々歳々時々刻々同一事しを限りもなく退屈もなく行
ふハ既り天地同様同體なり有之やまハ生を歡ふ小もたは
死成態む小もむハ然ると生成歡死を悲むを我とい私ある
有之其我とい私を捨てるも是ハ體を固り天地の儘なり心も

天地の倂となりまは生きたる死もせぬ天地此倂の姿となりて蚕く私とよ
重荷を下し新樂な境畧不至り終へし一夫天地の生死寒暑
暑暑尽くまは寒猶日出まは生日没まは死ナリ非情の草木花咲を生散
ぬは死之有情の品物起るは生寢るは死なり此外出息は生引息は死之
斯く如く時々刻々生死々を天地と共小為たり死成驚くは何と異
々私何ぞ有之是を能く會得らつて生死を起すの如く思ひ終へし
斯生死を免るまは直り神勇天降りて天下小歎なりと云徳小
至りて國家の御寶となり終へし夫人を何の爲小生きたるなりん
此御寶となりて用もて外小用なり但し彼の神勇を異邦小
異まは神洲風土に備はまは所謂十握の劔之故は神洲を神武
の御國と云はや既し上古神道衰へし以前は手弱女の御身
を彼神勇に御徳を以て三韓を征伐を爲し終へし今

世の勇神を人勇を量りて神道王道俱小衰へたるを知る一
ゆまは其神勇たるは人道の至極なり一朝一夕の談し非を以て
とも其端を摘んで云試ん先り人々常小々人の會釋も慇懃
叮嚀之猶甚し其を媚諂ひ或を猫撫聲の輕薄も一箇違ふ
も悪躰々出付けて道を取失ひ傍若無人の爲躰之丈も追々募
まは呼吸糴詰り短言の高聲は取り直せし犬狼の啗合ふや
夫は丹田顛倒し五臟の神々胸中小糴上りて五體の調子変ま
は耳目手足の用を失ひ震ひ出るの外なり此は仮初の事た小
斯の如くまは去来戰場とも云は日頃の誓古も手練も消
失て菜大根の如く小切なりは必定なり一係る者も殺人の
急込見るへし急込を面を赤らるる人なりは次小を短言の

悪躰出る之然もハ彼の菜大根の徒小く之歎小取てハ安心之味方と
せハ憑むれなり是を人勇共血氣の勇とも云之亦い程急込せても
面躰常のめく莞尔々と笑ふ人なりハ歎り取て六ヶ交味方して
憑り人あり斯云を豕も神勇之彼も神勇之と云えまて多く
猫撫の組も事なり此時ハ口先の書籍も功者顔小いめく之
見ゆと去来真成盛の用小々々々の訳も立か事神道の教立れハ
縮る危く儲神勇ハ然らハ常々此會釋と諳ひかけハ荒々
して而も邪見の如くかまこと一の間違ふと音聲柔小なり是も
幕まハ幕も順ハ弥慇懃叮嚀なりと道を乱るハ猶理解
穩あり此ハ誠心丹田小鎮まハ五臟の氣ま小位ハ五躰小神氣元
満まハ耳目手足の活用滋正く々然も彼の人勇の徒五臟乃
神氣放心く耳目手足の乱またる所謂木偶の小兒ハ實善き

甲冑を着て金銀伐銘の飾りをなしたる太力薙刀を携哉万人
たりも神勇一人の楠子小歎そへつハ彼の菜大根のめく断り
捨らるる我ハ組なり但ハ猫と虎を相似たるもの猫を見て
虎を見ゆる輩ハ神代の三十二臣人皇此日本武の尊も我人猫撫
の勇も相同くきまのこまて虎も出る世ハ猫も鼠の正
其も一樣小云難ハ何年の世ハ猫羽織を着て虎を抑へる
虎も時世を知りて猫の自由自在小なまハ猫増長して侮ま
先ハ龍なりハ何そ時世成憚る屈き何る勇を震はせんハ何ん
然まとも虎の勇を以て猫や鼠を相手取て何れせんハ
前文試ハい程急込せても急込るハ莞尔と笑ふハ虎の勇
何んハ此ハ心徳なりまハ目小く見へ補天小龍何る時ハ地小勇を
震ふ虎此所彼所小起らせんハ非ス後世也といとも天地元の天地

只世々小暮れ迷ひの垢驕奢の汚穢心よ染て代々小柔弱臆病とあり
而已之此垢を拂ひ洒る神代の勇小変るゆへに於是武を予廢小
非中心法修行の元たる成知るへに就て其修行経津主の章丹
委曲云り依て畧し是を神勇も天勇共云之此神勇國家鎮
護の靈劔なりまは世々の人々小此靈劔を心中小顯せ道を示さま
万年治國安民の政事を末代小備へ流る國道の要則神道なる小
今の世乃神道を神成祭るの道之也而已思ふ大いなる間遠ひして
道々地小墮たりしは是を云之呉々人勇を小事此一身の念りなり
神勇を私なるまは一身小付るの念りも更り忘れたまは念り
ありけりぬかりまは左小是非を君父の事天下此事小付て念り時ハ
其勢ひ雷の如く則天勇之例せも菅公の遣唐使を止免流る神
勇成合せ考ふへに今や兼平の御代小して更小念る事けりけり

世の中かりやといへとも國道の地より墮たる而已遺恨なき勿論兵器ハ
賊宝を以て幾許も製作なりまはまは人々然る道小あり殊り
神洲を神洲の道小ありまは日本武尊のめき神勇氣現まはは
あり係る神武の神々國中小充滿けり神武の御國まは安國の神
洲も云へまは因小穢ひとハ拂ひ洗ひの義其拂ひ洗ひる才一彼
の人勇此不淨汚穢の心を各神勇小水洒洗ひに國家の榮ひと拂
ひ除き天下安らむ志むる天下太平の御祈禱の御穢ひ御拂ひた
る主意なりまは然るに今も諸國神職の徒口先て穢へ天下太平なると
汗水小なりて穢を丹誠せまは礪る違へ水小繪をわらふるぬ其ハ
一身の小事小怒る人も多けまは大いなる國道の斯裏へ人氣乃
危き成怒る人のなれば備々苦々神武の人是を怒るんは行を
怒るん斯云れは峠の談なりまは高過て麓より一飛小をり難

立戻りて麓の低き所より次方をへく。儲前小舟もよく万物を仁義
禮智信に靈之其靈形小具足く。或は味ひは具足も有る其靈たる
所人間是を食く。或は賤用とひ人を渠小及く。形小靈味をく。
心より靈味を具足し其靈則仁義禮智信乃美味之去ま。万物支々
の味ひを以て人成助く。天下を助る之殊小人も万物の長たま。我小
備はる仁義禮智信の味ひを以て人成助るを素りたる。小人ハ私
有りて彼の仁義禮智信の味ひを失ふ。在新ハ禽獸小劣まり加之人
ハ心より毒有りて却て人成害する。何れや其毒ハ色情の根迷ひ
の枝葉繁茂の惡木有り。此惡木の花を欲情實を不義不法ナリ
是小引替代々の古人忠臣孝子の美味盡く。魚の味は是を鏡とく。
我々の心此味へありて照り見ぬ。一固り親々万物の仁義禮智信
の美味を食く。此體を結び生きて万物の仁義禮智信の美味を日々

小食く。ちりちり人間心小仁義禮智の味ナリ。時々万物へ對して恥入り
天地へも猶更なる。氣へも有る。始小舟もよく人を何の爲に生きたる
か。ん万物の長たま。天地の儘の神道を行ひ孝悌忠信の味ひを末
代小残く。父母の名を顯し外なる。一素り此心の味ひを自然小人
備はる。他成索る。小何れも。小智を打捨天理を己小枉たる。私の
手成放く。一切天地の儘。身心を任せ。其時天地万物一體の境
界となる。之在新ハ胸中ハ忍の鏡。曇り一時小晴ま。日の神々合せ鏡
の徳。一至ま。ハ心を身の外小何れも。事の知る。之意ハ四季時候の地小
向ハ地より其時々。の万物生くる。本體をハ忍の鏡とく。ハ万物と食
する。人間體中含藏の美味。元天地の靈物。之此靈物人間胸中の
ハ忍の鏡。ちりちり地小含藏する。靈ハ忍の鏡。人間胸中のハ忍の鏡と
則同體。然ま。ハ心を天小何れも。意を地小何れも。之於是人間心を天

小しく息あり意を地小くして體あり何れ八咫の鏡なり猶委女
云ハ時候この地小ハ其節々の万物生るゆく人も耳目より万事
万物の胸中小入り八咫の鏡ヲ移ラハ先此物種みより万事万物を
生るる心小くして地の天より向ハ時候毎了万物成生るる心此理成
悟まハ心を天より向ハ時候心之意を地小含藏する靈味之此心意
交合して物々生一人間其如く先の物事耳目より入り我體中小
含藏する靈味之交合して万事万用の心を生る然まハ心銘々生
まぬ先小別々小有りて今世生ま死して後銘々別々の心幽冥
至る訳小あり何れ是を以て悟るへ亦天地の中小生るもの
天地の外小道有りと思ふ大いなる迷ハ之實道父母の御國の教へ
是斯の如く是ハ天地万物一躰の心小くして死をせし生まぬ無量
劫此儼々心なり此心を我生ま出ても天地万物此儼死して後も天地

万物此儼々心銘々の心之此迷ハの磐戸を開ひて見ても矢張天
地万物此儼之斯廣き世界小出て後日本書紀を拜見せんとハ神慮解
くハ亦地味も五畿内の如き厚地有り那須野の如き薄地有り
其厚地ハ万物生々宜く薄地ハ万物生々何れ其如く人も靈味の
厚薄小ありて賢愚有り併く厚地宜くして弥々上へ肥く薄地味
過て却く万物を害ハ斯の如く有徳の人美味過て子孫の賢を
害も亦小中人以下ハ賢良の人多きハ在斯有之心得へ斯の如く
地味ハ万物を娠人ハ體味小ハ万事を孕む是を覺へと云覺
へると含藏の如く亦此覺へを意とも魄とも号く去まハ其覺へ年
少程體味ある小泣ハ老人の物忘して放心もハ全く體味疲ま
行有之斯くして死せると意の體小残る一物もなり心固り向ハ物
も我もの小あり何れハ何れのものハ幽冥小至り苦樂をせんや

考ふ處一々々残るものも子孫之末も新米出末まハ古稻も藁あり
統て天理を斯のや一人間其天理の如く天理の外小道を以てと明
ら免茲小落着とれを天人唯一の神道と云まを唯天の如くと云道
神州古則 羽明王の御祖王の啓^{ひら}祭給^{たま}御道之時小其道たれ日本
書紀を養老小舎人親王 勅を奉て書せ給ふといひとも我國開
闢の御道神代小石凝塊製作の文字を以て傳へ追々世の開闢不^たひ
水莖小残ひ假字日本記と題を給書を後舊事記或を古事記或ハ
日本書紀等小寫し次算せしもの之有^ら小其起元を儒佛渡来迄以
前なりまハ今の世混糝れ振りを以て彼の神慮を推究むる誤み至^ら
そ其子細々天人合一の道を道とて天下政治免^れ神道我神州
の國躰^{なま}ハ聊私意を加へたるもの小非を先人間氣化して凡十七
八代免^れ荒鴻草昧の世たり此後天下政治統御し御子孫大日本の國の

王たりし天地一ツの靈妙此氣を自然し受^り神聖御降誕在坐

羽明王の御祖王れ御心徳を 瓊々杵尊と稱へ奉る則

今上の御太祖之此期同氣相求れ自然の天理降りて三十二臣誕生
あり則君臣の義を結んで今云大和紀伊伊賀伊勢山城摂津河内
和泉等の國を切り版^か膺^か治^り由見へたり最三十二臣の神達の苗裔今
猶存ひ則開闢草創の家柄之後遙の代を経て人皇六代

孝靈天皇の御宇富士山現はるま何れハ蚤此時駿河等の國を

王位小属し富士山も御宇小入りたるを現はると云之却て隣國から
近江國を服膺せざるは是を漸々此御宇服膺して富士と湖水を一
度小現はるを御宇小入りたる之其後十二代の御宇 日本武尊を以
て九州政治免又関東を服膺治^り此時代六十餘州大方

王位小属しる蝦夷等 日本武尊以来奥羽小整りるる大同小

東隅の島へ追ひ遣らまし則今蝦夷ヶ島と云是に去まハ 羽明玉の御祖王
の御心徳 瓊々杵尊を日の神比皇孫と称奉ら氣脉相承の神聖
開闢の期繼天立極終ふ神道を則日本書紀之其書中才一也と云
所を神之神とハ天地之陰陽之万物之其長たる人間天地の靈其極
たる此體則神之此心則神之此外小奇妙不測理外を為神を日本書
紀小見へや有の儘小して其躰和訓小灼焉此和訓集えて語をイナレシ
心成願を認たりまハ先和訓を解せ成才一と云之時小和訓の習風ハ
一ツの訓を幾通り小も活用せり格之譬へハ笠の訓日避カサヒの意にて願小
蓋を乃魚なりまハ椀の蓋もカサ云瘡瘡も身の蓋なりまハ瘡と云瘡
込森高小ものを積も倍と云斯の如く笠々三通り小も四通り小も活用
如く凡の訓咸然之存小神号も彼の格れや伊奘諾伊奘冊と云ハ誘
引誘引イナレシ云之其誘引誘引イナレシハ神之神を日水之天小在てハ寒暑

昼夜地小在て水火之人小在てハ夫婦之氣血之心意之是を伊奘諾
伊奘冊と云訓之と心得へ總て天地陰陽男女雌雄の活用妙合の
實也云於是神書小伊奘諾伊奘冊と云りとも強ち日の神の父
母の神を云而已ハ非也幾通り小も活用せりまハ或ハ暑寒を指
て云所も何り日月を指て云也何り氣血を指て云所も何り之此外の
神号其訓小依て種々小活用せりま余を此例之と知之最儒
佛渡来遙以前神代の事なりまハ今云如き仁義禮智の或ハ五行
相生相剋等の名を勿論たり然まとも道も何の國も天地の
道なりまハ其道を道とて心の行小唯一と云る小も名を異之雖
仁義禮智信或ハ五行相生相剋等小同義理我國小於てもなて
符カサを其所以神号小著明イナレシ有り神号も 羽明玉の御祖王或ハ
三十二臣も有形勿論之余ハ多く無形小して天理の活用を直り心の

活用として唯一の道を示し或は日月水火氣血等錯綜の活用を示
或は善惡邪正等小神号伐配當は其を道は天地の道小くして自
然小行はるまは人の差圖を待應まに非をくしとも人道を人主乃
誠小何よりまは行はまは其人道の為小天道を示し小教の訓押
経なきは人心の托りを天道の正直を以て推経直小為治ん為の
神道之又過^{オホコト}の訓綾間違ふは人道の綾間違ふを云斯綾を間違
へ道の糸を乱すものハ色情之有不是を誠むる小和歌を以て口傳
時小今の世を更之神代小と色情より迷ひ小入り道の綾を乱す者
何れをまは大己貴の章并神武卷の饒速日或は土蜘蛛等悉色情の謂
かり猶今を以て人心に迷ひを云時を先色情より欲情に分身し
其欲情より種々小変化の鬼魅魍魎異類異形の甲冑に得物々々
を携へ切り合組合日々同士打の騷動を目小しと見え祢今日御互の

胸中取ふまはる小鑄を削良欲情の合戦を君父の為小も非を天下
の為小も何れも又世を救はん為道の衰へたる伐憤徹して粉骨碎身
を為小も何れも只己の為脇身も振ふを僅五人三人の家内或は五軒
三軒の一丁一村の中を我を人より優まると大己貴のの大己貴の
我程のものハ何れもと驕慢小慕は胸中の黒闇親ても子ても欲情
し付てハ手當り次第敵し取り肝癢の短氣のと云眷属を手先と
く相手を嫌はひおさんま酒の上辞の間違何等の小事も當るを
幸ひ小可き廻り傍若無人の振舞小一日片時も氣の休まぬ間なく
疑小疑たよる人勇の形勢傍を拂つくものく交り見へたりあり
勿論此勇將年中腹立小言たし小何れも月日を暮し縮むれ一生
涯小何一ッ思ひの遂たる事なりまハ不足々々且窮迫し彼を羨み是を
憎みて千秋樂を年寄りて身より自由小なりぬり設けらるのて大死

願以之功德是等是人勇の中少くハ一騎當千の兵を所謂緋織あり
了々今生殺千度の合戦黒闇の一生を切り抜け三枚舌をも親の遺跡を
継畳の上より大死を為たれり實小為勇之と云へ去まハ人之生小
ありては丈夫小諸禮の諸藝あり其中博識博覧の人も多し丈夫
意を誠小其れを要せしめて學少人ハ脩身齊家治國平天下もなる
塵多し是を登坂坂連に至り少く何事獨歩より外あり又色情
より欲情へ下り連多し足も向易く是ハ登り坂の命を捨る恐む
坂より命小殆ものなり而も金銀の自由小貪欲下り坂各勝手
の利小賢小和漢の學者達多し爰小會合して互小驕慢小
花を咲せ各緋織の勇々敷甲冑小傍を耀く大己貴の勢小ハ肩
を双る何事もなれ時を何事へも何事何事ハ五臟の神々胸中へ
糴上り五臓の調子変まハ耳目手足の用を失ひ震ハ出の外ありし

此類廣き世の中少く無小も何事へも亦彼の戦い小不調練の者ハ
黒闇の一生を切り抜け進退維谷ハ溢り身投或ハ自殺一猶甚
く此を切流され放さるる苦小苦を交闇ハ闇小まよひ
迷ふも苦む事もや何ん是ハ人界ハ苦界之生ま来りし
期あり在斯迷い小何れも光陰を過すハ呉々歎くハ抑此迷いハ何事
より起りしなりハ當々女の腰小明ても暮ても目付付を離れ極々
意地汚穢曲者今の世を以て云時ハ胸中奥の院の御本尊して三千世
了是より貴子なり何れも秘佛之此秘佛を竊小開扉して
見ると時々不浄の中此小便虫も何れも之備此小便虫も今の世緋の
衣を着て授るも十念を少く交ったく去まハ此小便虫も諸の悪事を
起し諸の艱難の悲歎小諸の人を沈免傾城傾國の大悪虫神の
罪咎宗りを神の為ハ何れも悉く此悪虫の宗りの身小叛所之

凡天地の間小悪と云悪々咸此虫の眷属之其酋長の大悪言語同断じて
道の大敵ハ啻此虫一ツ之其ハ此虫たりんハ人乞既小天地の儘の神之此虫
ありんハ小神勇を人勇小墮を於是禽獸小劣まり去まハ在斯虫の勇
たゞハ柔弱臆病なり何ヤ 皇孫の護國とありんハ先此虫を退治
し人をして神勇小為し先神洲弥堅固にして治國安民の為しむ
れり國道の要之委曲を大己貴退治の章を見て知るべし丈夫學問を
多く鳥獸草木の名を知る而已り學問ハ非も啻乎近く此所ハ心を
縮え私の私たる起元彼の悪虫を國道経津の御劔を以て立所小退治
し天人合一の神勇の徳小至り國家の御寶となりし美名を後世に
耀し末代忠臣の鑑となりんこと欲を道より外小行道ハ非も我國人
神代小神の誓ハの隨意今ハ今の 皇孫守護小天降まハ遠き近き
の差別小ありんハ士農工商遠くは遠きに守護の道ありんハ己たり

備ハれ道々を勵むし如ハ何れハハ災して己一分の力の榮花小今生ハ生ま
出たりんハ何れハハ啻 皇孫守護小天降りたりし心得へし何分色小耽ま
ハ欲起り欲起まハ物を悟む其物成悟む身構之身構を色小耽らん
為小生存へ度存意之丈を彼の虫ハ胸中の此上なり大切ある主人なりハ啻
此虫の君ハ身を捨てても實義を成しんハ簡小安心をまハ大恩何り
君父也雖貴き此虫小換て大切也を氣を毛頭をし勿論身を捨て
忠臣を竭す杯を思ひもありんハ座形の能き不取繕ハ
置まき也然らハ實の心底を分明て見まハ人勇を斯のやし此人勇ハ
日頃命を惜む根性之ハ小柔弱此上なき之免小角人情を憑まき也其の
小是小任せ置ま小事と雖不覺の基之心得有へき事之去まハ人勇ハ
柔弱ハと思へハ誤りなり女之事小ハ身を捨命成惜とせハ於是ハ
強勇之ハ小君父を捨て古今此迷ハ小命成捨たる類舉て等々也

迷ひの甚しきとものなりん在斯危き人情を神代小御見徹く何の
神代卷小経津主命を以て大己貴命を退治し而後 羽明玉乃
御祖王の御心徳 瓊々杵尊此國へ降臨在座とあるハ先心とて意とて
形何ともの小非そ意とハ胸中所謂八咫の鏡之此鏡小譬ハ花々移まハ
移る間を其花々鏡の主人之主人と心之又鳥々移まハ其如く余咸斯の
ゆゑ時小一重櫻々鏡小移りて主人となりてある小八重櫻々其上
移りたりとて先の一重櫻々退る間を八重櫻々主人とハなまこ
去まハ 瓊々杵尊万乘の君之在斯貴き君と雖万民の胸中の鏡小
彼の大己貴命の色情々先小移りて主人となりてある間をいう程貴き
万乘の主れ君もても大己貴命の主人々退き流はさぬ間を
瓊々杵尊々主人となりて移る小至るハ亦上件々云所の大己貴の迷ひ
を経津主の経津の御劔を以て退治し攘ひ除き万民胸中の鏡天

地其儘なる浄々たる鏡小 瓊々杵尊降臨在座て万民を治め流さ
しつゝ之論語曰未見好徳如好色也孔子も謂ふ程の難き事を
忽小翻く國民忠臣の一徹小服く奉る 皇孫の御徳如何何ん考ふ
塵く兵々國の安危を外ハ非そ民の心此不浄彼の色欲の迷ひを
攘ふ道を教へ 君國民の腹中小入り流へハ其難有を仰き君の御徳
暫時と民の心小離さる余念なく君を而己思ひ奉る國民なりハ何
為小命の惜りんや斯人氣を善道小翻く國を強く為る國道乃
要とて所之太平記綱目云或時正成卿ハ尾僧正同く夜直宿の刻
僧正云于時正成殿今ハ斯御耽くあると其昔々敵味方とて互
領分の境を争ひ幾度とある戦を為はるよちと云たりと云ハ楠所知
らぬ躰も居らまたり亦小僧正推返し同くを云たりあると
楠云僧正も今小在斯小事を胸小置るは某々君小仕へ奉りて

以来家と身も打忘れたまひ昔領分境の小糴り軍あんととんを
忘まつと思ひもあつたれどこの帝正成の胸中小を 君御一人の外なりと
答へらまは僧正黙して退きぬと何と万世忠臣の鑑と仰りま
はる人の腹の中を別なとの之其御胸中の奇麗なる事晴天の天空
の如く帝日の神一ツの仰りも余りあはれやうなり光國卿の嗚呼忠
臣も染筆を流し嗚呼の二音深き味いけり其徳量り知へぬ
人も大道の修行練磨をまは在斯徳小至るものを是を優^{ニヤシク}天地
同躰の神勇之人と生じて人の所詮を遂末代高き高天の原より止り
忠臣の鑑小跡を岳も流す之斯の如く照り耀く御鏡小修行未熟の
我人向ひ奉まは羨しひや恥しひや途方小暮てをりくと溢る
ると只感涙而已之何ぞ主人何る方々正成卿の如く主人の為小家と身も
打忘れ帝胸中小を其君御一人の外なりや但し胸中小捨らまぬとの

在る主人を此次小あり僅此二りの間も人々禽獸との差別ありなり
是は誰しも胸中小主人を大切小思はぬ人なりと雖何ぞ胸中小を
諸色雜事なりんは非を然まは其諸色雜事比中小混雜して主人
と在座なまは日の神在ても諸色雜事の雲小隔らまて曇天なり
ゆゑ在斯は主人の目此神を隠したりと云ものなりと就ては我々此
曇を後世小遺して何の譽小ありん考ふ處も僅五十年八十年比
人思善を為らまは此上の損を何れも無うらひま世小有難きと何ぞ言
流行神流行佛と云ふは非を忠臣正成卿程の有難き鑑を何れも
心鏡に忠臣の初一念の人々正成卿の彼の御一言と合せ鏡となりて
感涙せぬを何れもあはれまて丁度真の武士あるを然るを鼻て正成卿
を何れもあはれまは逆も潔き打死を覺束なり何事もなき時小
此鏡を磨き置まん何れせんや國の強弱を帝此鏡の照と曇る

少ふあるとの之異國の事なり。往古殷の紂王を万衆の君たりと雖モ
國民の腹小紂王在座の他文王やせし國民の腹小天降りて竊
り仰き責む其万民の胸中小天降りて文王の為小紂王亡滅後へり
然るハ國民の腹小其君なくんハ國の亡滅ん事斯の如く去まハ君の
御徳天地同躰小在座ハ民の腹小君小たると事 瓊々杵尊の如く
吳々國の強弱ハ人の多きも憑たこ小はへり兵益山を爲と雖憑と
す重くハ君の腹小民何り民の腹小君何り上下錯綜の綾所謂菊
理姫命の神秘何れもんハ國の強き也云小至るハ因小云一向宗の人
氣の凝る所以を宗祖の方便小愚丈頑婦の屈伏して彼の宗を信せし
ハ始之其子を乳の上より親の信心を見馴し聞馴しして彼の色情
起らぬ先胸中の鏡々曇らぬ間得と宗の蘊奥と會得せし初一
念所謂先入も世小責きそのハ此宗小止る也安心せし其先入何の上

色情を生そぬる色情を二の念もて輕し然るハ彼の宗徒ハ色情
し迷ハぬくも之ハ人並小迷ふて相應小過も何れ之然まとも色情を
二の念もて輕き子細も今小も彼の門主小一大事何れハ各立派小宗の
徒命を捨るハ並々以下の武士の及所何れハ石山合戦を
見ても知るへし其外一向宗小予困ツリせし例し救々何れ合せ老小座し
在斯捨りし命を容易捨るハ色情ハ二の念なる去イサ来と云日小を
其輕き或捨るハ理の當然之又不忠の士も色情ハ初一念もて所謂先入
主人を二の念之たし事なれ時忠節顔を爲て人前小鼻をたし
座して何れも去イサ来とす初念の主人を捨る小何れハ然まハ初
一念を重し二の念も輕き事是を以て知るへし去まハ神職の徒も乳
の上より神の有難を見聞為るハ神の事ハ打死も為へりあるを
然らば是ハ如何と云小中昔より神道変し今之世此有狀なりある

取留ウ於テ妄談ハ墮入スハ何ニ一ツ筋ヲ立テ事ヲ行フハ綾ノ紐ノ纏ヲ如何ニ也
六ヶ敷ニハ親ヲ分ラズ子ヲ分ラズナリ不成育シテ色情ヲ生ス近ク鏡ノ
移ル初ニ念ハ是レ一ツ取留タル事ナリ虚カ々トモシ中ニ色情ヲ生シ其レ色
情ヲ初ニ念ハ成リたレ彼ノ柔弱トなるニ其レ柔弱ノ次第ハ人々ノ見聞
其レ合ハ又ニ儒者ヲ幼年ハ素讀出精ス而已ニ色情ヲ生シ後
聖意ヲ聞ク是レも色情ヲ先入ス聖意ハ二ノ次ナリ去ル真盛ノ
時ニ氣ノ毒ナリ神道者組々々在ス斯ハ幼年ノ中ニ忠孝ノ
魂ヲ入ル小如ク故ニ始ヲ繪ニ木偶ニ忠孝ノものヲ手遊スせ
附ノ者心得ク妄リ咄シ世ニ貴キ初ニ念ハ小ナリヤクに為ルニ此上明
君良將多く出立てテ弥ニ國家堅固なるニ是レを疑ヒ何ニ年
取テの後ニ明德ヲ初ニ念ハ取替るニ中ニ難シ夫レ方便ノ欲ヲ先入
を翻ハ易ク實ニ學ヲ天地有リノ儘ニ道ヲてテ教ヲ立

夫レハ佛ノ模様トハ異ナリ夫レ國學ノ蘊奧ヲ余事非シ万民胸
中ノ鏡ヲ私心ノ先入ヲ翻ス天子レ御德ハ先入スて治國
安民ノ法也其レ政事ハ小神道地墮テ以來佛々万民ノ先
入スなりテ君ハ為ル所ヲ佛ハ憂身ヲ省シ忠節ヲ竭シ世
中トハあり忍苦々敷事ナリ夫レや夫レハ八宗九宗ノ中ニ取分ハ彼ノ一向
宗ノ教ヲ迷悟ノ差別ヲ何ニ也國學ノ蘊奧ハ相似ナリ傳ハ不
先ニ天下蔓リ此宗ノ徒ノ多キ事方を以テ量スへル其レ數方億ノ
王民胸中ノ私心先入を翻ス門主ノ德ヲ先入ス國躰ノ如ク也其
本山ノ貴キ事高天を耀セル形也王民ハ心ヲ門主ノ
民ノ其形ト心トハ形ヲ輕シ心ヲ重シ然レ共僧徒ナリ何ノ程
ノ事モ何レんナリ退テ堅ク枕ヲ高ク小レ何レん
其レ子細ヲ通ク門主燒失ノ後數丈ノ棟木ヲ諸國ヘ索ラル小

漸々北國小て見當りたり然ま共神木なりまハ伐事つゝハ於於是或者の
云此神木を穢スハ縊スム小如クナリト云たり々其評判忽小廣クナルハ
彼の徒我勝小死を積り小て或夜竊小其樹の元小至リを見まス早
魁の縊りあり是武士なりハ魁の亦死と云トめテ然ル小此大木容
易小曳事つゝハ於於是老若の婦人立所小落飾シ其毛綱を以て
曳テ其數百里の遠路殊小峻岨の難路を其村より彼村と群り聚
りて數日を経て卒小京都小納む斯の如く神木小縊りテ報恩
謝徳を為度忠節なりまハ人情の恪と云テ財宝を物の數ハ故小恪
まハ門主小獻備スハ僉人の知る所ニ猶窮者の族或ハ奴婢僕從
の類連夜四ツ時より九ツ時までの一時男ト蒙の手業女ト糸の手業
を為シ其手間の價を門主小奉納シ殊勝の事なりハや熟々是等の
信實を考ふハ竊小袖を濡シ而已是ハ一文不通の者共なりトも

心々天地の靈なりハ兼ニ倚リハ斯モなりトのを去シハ地頭小於テ作
事ハ小數丈の棟木入用之幸國内而モ平地の手近小良技ハ然マ
とも神木なりハ伐木スハ至リ依テ縊リ然ルハ於是領内の者
縊ルハハ數通の觸を出シても地頭の為小縊ルハ如何ハん
覺束ナ猶彼の伐木伐曳小毛綱入用之領内の者共落飾シハ若
違背の輩ハ曲事為シ觸シを出シても是も覺束ナ依彼の
伐木ハ大木なりトも平地ニ曳シ便りハ道も拾里小近ハ領分の
この曳シハ是も無シ據曳シハハなシたリも領主
の爲身ニ入カ伐シる者先ハ少クハ是等の差別ハ形の服ニ心
れ服ニもテ天地懸隔の相違トなる在斯ハ地頭のハ不ト連夜
一時の手業を報國小獻備シ其族ハ以テ不是ト覺束ナ統テ
斯民の心と脊中合セも双方本意ハ何ト死地頭ニ

初一念として門主を二の念小為ハ則神代 瓊々杵尊の御代也も
異邦の堯舜の代共云應ふん先呉々民の心々領主を外小して他小服を
其服もとの若く領主小向ひたふハ足元多々歎小なるハ必定之此時
防戦の術如何にん是を以て何ま小事なき間小民の服也國道の
艱肝要たふん先其國道を只々不淨の人心彼私と云曲者大已貴也
思小鏡の曇りを拂ひ除きて 瓊々杵尊則當時小於てハ

今上之此御徳を万民の心小移し替天下統一統形も心也 王民小為の要
なり是を 天孫降臨と云又領主々々も其國君なりハ其國民の
心より其國主々天降り降ひて形も心也其國民小為の要則神道二
此神道小万民服也既小一向宗の方便の道た有難く宗徒服也時
を報恩の為ハ命之捨ぬまハ輕き賤宝たんとハ物の數ハ宗の為ハ
ハ何とく惜と為へん況國道の實道をや斯實道小國民服也

上ら君の為ハ命も惜まハ賤宝も惜まハ是も 君々為是也
君々為也 君小國民憂身を省せ世々たふハ用金を中付らまハ
國君の富貴を幾許たふん又天爵の貴きも量へん固り
君々民の父母たふハ 君々賤宝と民小惠み民々賤宝を 君小奉
らんと互り譲り合ふ上下錯綜の綾を世の纏まらね
仁徳帝の御代たふんハ然る小其道の綾間違ひ年久敷習俗小なり
未まハ免小角驕奢增長を無撻筋之然るを威光を以て儉約質
素を如何小中付たりとも心々表裏なるハ改革なる小も至らま
統ての事表辺の扣付小今日凌き小凌けハ凌々たふハ底心の
濟ぬとの之万事云付て為を為小能ハ云付んとも為り為なり夫々
生あるものハ一惜き命てさ中付んハ神木小縊り一文不通の細
民たふ心より起て夜一時の手業を彼の門主小献備をさ小ら

そや然まハ人も教く小侍てハ斯 君の御徳小飯服せ威光を以て
中付ハ渠ハ心より起ラ報國ハ命も捨ヘ其重キ命ヲ獻
まハ誠心ナリまハ輕キ敗室ナリまハ物の殺ともまハ況儉約をや
於是一切の停止威光を以て扣付たる停止ハ万民の心より起テ
停止為ハハ万世相續の停止ハ夫神代の御教ハ高
くハ麓より一飛ハ小登リ此嶮之故ハ低キ所の道を足
習ハ小是追種々と兵ハ是實を渠と日を同ク論する
詔ハ何ハ吾 天孫御直様の神代の神軍ハ形を切
國を領テ詔ハ人心の迷ハ經津の御劍を以て万民の胸
中を切リ平ケ其腹中 天孫天降リ後ハ万民の腹ハ万世
天孫の治召 皇國ハ是を大日本の國也云其大日本の國ハ神洲
神洲ハ神武の御國也其勇六大洲ハ耀ク 王位是を十握の御劍

云則 皇國御代々治召御胸中内侍所の神室是ハ在斯ハ國を取
取ル心を取國を取の要之去マ心を目見さス
その小能を故ハ神と云其神軍ハ勝をてて國民の腹ハ具
君々天降リ神武の御國ハ弥ナリ所ハ形の軍ハ而ハ歎
まハ是を鳥傳の大星の傳と云軍學の極秘之就テを
又々浮世の事を云小何ハ係ル貴キ國道の地ハ墮タルを慊
慨して 君カ歳を祈ル報國の忠ハ帝蕩々の心ハ苦勞ハハの
小便虫金を貪リ美食美服を好ミ分不相應の驕奢ハ分不相應
の望を起シ徳ナリ高慢ハ幕リ免角ハ人の落度を歡ビ
寄合群リ合ハ人を誹謗或ハ憎ミ恨ミ等を年中の仕度とて日々
の増長ハ驕奢不作法懦弱懈急ハハ身ハ不勝不性の
家業の間ハ透ル遊ハを支とハ又諸藝事も高慢の飭リ

二ツ小を金のなる木を目當小彼の虫々為業たりハ固り実事イ何れ
是ハ弓取の御歴々日の神の御座小近き雲の上を去来知ル農工商
及ハ遊民等の腹臍を迄て見まハ大概此辺の見當小違ハ一丈婚合
の道を自然の道して人物生々肝要の道之然まハ迷ハ斯の必
迷ハゆまハ天人唯一之譬ハ水火を人小親一きとのおそかりて叶ハぬ
とのなまハ甚一き時を身を焼水も溺一き時を命を失ふりおとく
男女程親一きとの何れと云とも甚一き時を身を害一國家
の孽ハを為恐ハ履此の至極と云ハ一在斯深き迷ハの色情を神
勇小翻も道々神道の肝要と云ハ所之委曲上件々云処のや一偕日本
書紀を系圖一卷紀三十卷也一りま一今世小系圖を傳ハハ按リ
往古卷物小何れ一を慶長の度本小為時緘込たるハ蓋系圖
也何れハ源氏平氏の系圖のや一神々の系を引て屈曲せ一とよな

并一思ハ免ま一然らハ又神系圖也稱も一りま一是ハ後世の作為
小書紀の始小置所の系圖とハ違へり去まハ天神七代也稱も一章
優一系圖小日本書紀を天の浮橋の章より以下を云々著明一
丈々紀三十卷ハ 羽明玉の御祖王の御心徳 瓊々杵尊の御系圖小
系圖一卷也断る系圖を万人一躰の系圖之于時其天神七代を万人
一躰の系圖たる所以を天地開闢して後人の氣化貴賤一之
羽明玉の御祖王の御心徳 瓊々杵尊天下を統御為治ふり君臣
二等小隔ハ以末 羽明玉の御祖王の御心徳 瓊々杵尊の御系圖ハ
帝王御代々の御系圖小一日本書紀三十卷なる也彰之去まハ先リ
天地開闢のまハ人の生まぬ遙の以前たまハ後小生る人徳後令聖人
たり其争ハ是を知ハ并や考ハ一然ま共開闢を記ハ古書の何れハ
人の推て考ハ之固り 羽明玉の御祖王人躰小在座ハ同断の誤

なりや之とも

尊の御見識を何ぞ天地開闢の知まらざるを強て
勞せざる益なり。夫より即ち天地万物唯一の道なきハ即今生る人の
開闢を知らば夫々則ち天地開闢も毫厘も違はば是人體を以て天地
を知るとの謂之於是開闢の章天神七代を人間開闢々主として天地
開闢を客之故小人間氣化を始し顯し故曰以下人間體化を顯し
後少美之猶天神七代を國常立尊國狹槌尊豐斟淳尊塗土煮尊
沙土煮尊大戸之道尊大古邊尊面足尊惶根尊伊奘諾尊伊奘冊
尊凡テ十一神を天神七代之此神達を僉人胎内十月の間天道循環
小連て氣血活用小神号を配當し訓美を以て靈妙の徳委曲し
明らざるを唯一神道を顯し後少御辞たりは十一神凡テ無形の
神之後人の思ふ神とハ異なり是乃一此形體を作り後少靈妙不測の
神なりハ諸願を驗後少は是程の有難き神を以てへる故

此章小の伊奘諾伊奘冊尊も氣血活用の神之最氣を陽小して天之
血を陰小して地を主ハ天地誘引誘引て万物を生し氣血誘引誘引
て人體を為し唯一小の此氣血の諾冊僉人胎内以來此體小
在座て壽を全ふ為後少神徳時々刻々の活用を以て食物を為座
此體を堅固なりし氣血二尊の成功なり因ハ小日の神も天日
なりは我小天降りて此體の暖き日の神小のや總て神道を
外を云ハ一向天人唯一の活用を主として治國安民の法なり後少
我國道聊も作為を加ふる小の故小浮橋以下黄泉の章迫人體
を以て天理を論し其以下天理を以て人道を説後少神武紀ハ悟道
修行を軍小表し心意の邪正を示し後少而已文勢を神変不測小見て
其實も脩身齊家治國平天下の要道之在斯御道開闢の期定る
後少國道何まハるも君臣義を違へり今以て神代の如く天下を相承

爲はふ小なりしや然る儒佛渡来以前を我國小道なり。上古を禽獸小
等き國なるを聖佛の陰して人道立之然まハ天神七代を過去七佛を
似せ後小作為せしもの其外神代の卷を稱する書を易を本として
作為せしもの杯何年の世の儒佛の徒云出たりん知る秘を斯上を憚
りし不忠の惡言も云ふくもの危然。此惡言代々小流布して内心是小
變る我國人多く故小歷々の神代の卷の註も彼の流言小劫ツヤカさしてや儒
佛混糵を乃一加之國躰の腰立ウシに註書救々有り不見識此上なり
とや真測以來ハはそふ儒佛混糵の迷ひを拔たしと國躰の腰を矢
張り立は走ら如何小と云小愈人天理の外小神変不測の神々何と思
迷ひ晴まらまハ依て筆を勞し年来の修行を奉るを世小倫ひたれ
報國の忠チカを感涙袖を濡るの外なり其志の高きゆ及ひも其内
訳ヒカも口ヒカ菅ヒカ仰き責免ヒカし惜り其勞を筆多く空談し墮ヒカ

政事の要道小立は帝風流人の持ヒカ稱ヒカを而已其政事の要道小立は腰
痛代々の傳種病ヒカなりまハ今更實事をいハ却て病小徴ヒカふ小似たり
心とも徳不孤必有隣の道理なりまハ多人教の中ヒカを無病の人も多
くんヒカなりまハ若是等の人目を止免見給はるん固り神道を我國道
とて誰ヒカく祖先の行ひ給ふ御道是を慕はる人何へん於是
その心覺一人ハ一経リハ神書も見給はるんたれま何分神書ハ傳
たれまハ統ヒカその綾捌きわくして解し難きものなりまハ帝神変不
測のものなりま差置人多くん左をまハ下拙をとも同く談ことハ
國史小載はるめく開闢小功積を立給ふ三十二臣其筭二十一番小列
はる天の神魂命猶 神武天皇小奉仕爲はる建角身命の苗裔小
生しハ聊祖先の傳へ家小相承る多を元ヒカして修行爲る年来の
練磨小彼の綾を捌く事を得て漸々道小基に 政一致の唯一の唯一

たゞ神道の端を覺悟なくぬ就てハ流行の神道と表裏の相違なきハ
異説オホキ稱オホキらるゝも是非なく侘年来修行の程云はて止らんも本意オホキ
且報國の志オホキなり似たまハ聊慷慨の志を述ぶ去まハ日本書紀烏傳の
我拙オホキき註を若や讀んとおほひ人オホキ行オホキんオホキハ此試の坂オホキも足を習オホキせし
清龍川の清き流まオホキ塵俗の垢を身洒洗し迷オホキひの不淨を科戸の風オホキ
吹拂オホキひ愛宕の山絶頂オホキ勸請オホキ何オホキ軒遇突智の神社オホキ拜禮オホキ小登オホキ降オホキり
嶮岨の坂道オホキ心易オホキんオホキ而オホキて其上高オホキた高天の原の月の桂オホキも折オホキへオホキん
すの為ハ街の迷オホキひの横道を塞オホキき麓オホキより唯一の大道オホキを導オホキき脩身齊
家治國平天下の異國オホキ小稀オホキなり目出度我國道の端オホキを此焉オホキ小述オホキる夏爾

神典觀見論

夫觀ハ心ノ觀ルヲ云見ハ肉眼ノ見ルヲ云先肉眼ヨリ見タル神典ノ次第ハ
天地開闢ハ天神七代ノ成功之侘天ハ吾國ノ天ト同シケレト地ハ異
國今云六大洲ノ地ナラシ其ハ天神七代ノ天地開闢畢テ又別ニ伊
奘諾伊奘冊ノ二尊天ノ浮橋ニ立シテ此大八洲國ヲ生オホキ給オホキフトアリ
然レハ此大八洲國ハ天神七代ノ總世界開闢ニ不拘二尊而已ニ造リ
給オホキフト著明シ既ニ古語拾遺ニモ夫開闢伊奘諾伊奘冊ノ二神天ノ
浮橋ノ上ニ立シテオホキトアリ是其徵之故ニ小國ト雖吾國ノ貴キオホキ外國ノ
及オホキフ所ニ非ス依テ神國ト云又大日本ノ國ト云之斯大日本ノ國ヲ人子ヲ
産如クニ生給オホキヘ氏未日ノ神御誕生在座サルニ倚テ闇ニ其黒闇ノ
間ニ海川草木ホヲ生給オホキフ其後諾冊二尊日ノ神月ノ神蛭子素尊
等ノ神ヲ生給オホキヒテヨリ天日赫々オホキタリ是故ニ日月ハ則吾國ノ神ナリ

此焉ニ日ノ神ト素戔鳴神ト劔玉ノ誓約ウケケヒ在テ吾勝尊ヲ生給フ其吾勝尊ノ皇子 瓊々杵尊之此 瓊々杵尊此大八洲國ニ天降り給ヒテ大日本國ノ 王ト爲給フ去レハ 瓊々杵尊以前ハ凡テ高天原ノ神業之 瓊々杵尊ヨリ人體ノ神ニテ降臨ノ供奉三十二臣及ヒ八百万ノ下官僉人體ニメ高天原ヨリ揃々此土ヘ天降り給フトアリ此ハ不測ナレト神業ハ人智ノ量ルヘカラサル所トノ不審ナカラモ其隨差置ヨリ外ナシ備 瓊々杵尊國津神大山祇神ノ女木花閨耶姬ヲ娶リ給ヒ 皇子三神ヲ生給フ時ニ无戸室ノ中ニ數千ノ薪ヲ入レ是ニ火ヲ轉シ其猛火ノ中ニテ三人御出生爲給フ是モ同断不測ナレト神業ナレハ不審ナカラモ其隨差置ヨリ外ナシ去レハ御兄弟二神ノ幸易ニ倚テ弟ノ神 火々出見尊海神ノ宮ニ至リ給フ是所謂龍宮之此龍宮ハ海ノ底ニ有ルモノ歟是モ不審ナレト同断神業ニ任ス左レト底心濟又誤ナリ蓋此龍宮ニ 火々出見尊三年止リ給ヒテ海神ノ女豊

玉姬ヲ娶リ給フ 尊大日本國ヘ還幸在座テ後豊玉姬其妹玉依姬ヲ俱メ 尊ノ許ニ來リ給ヒテ 皇子ヲ生給フ御称ヲ 鸕鷀草葺不合尊ト白ス是ヨリ先産屋ノ誓約ヲ陽神破リ在坐テ硯キ給ヘハ陰神龍ニ化テ 皇子ヲ産給フ故陽神ニ此形ヲ見ラレムヲ慙以草葺兒棄之海邊陰神海宮ニ皈リ給フ故ニ其妹玉依姬ヲ留テ持養兒ヒメナシム云此後 鸕鷀草葺不合尊以其姨玉依姬爲妃生四男云此弟四ニアメリ給フ 皇子神武天皇之是ヨリ人皇ト称ノ歷代天津日嗣ヲ相承爲給フ今日ニ至レリ猶 鸕鷀草葺不合尊ノ御壽ハ十三万六千四十三歳トアリ其 皇子神武天皇ハ僅ニ百二十七歳ナリ最モ神ト人トノ差別ハ有ヘケレト余リノ相違ニ既ニ神武ノ卷ニ自天祖降跡以逮ミナカ于今一百七十九万二千四百七十餘歳云如此國史ニ載ラレハ凡庸ノ見識ヲ以テ如何ト神代ノハ察シ難ケレ彼復ノ水虫ノ冬ノ氷ヲ疑フノ譬最モ協ヘハ帝何事モ不測トシテ差置ヨリ外ナシ觀ノ論ハ在斯

國ヲ治ルモ御祈禱諸願満足モ御祈禱ト一切御祈禱任セニ爲カ神道ナ
レハ吾國ハ上古道ナシ故ニ儒佛渡來以前ハ禽獸ノ世ト儒佛ヨリ誹謗
スルモ據ナシ其ハ日ノ神ト素尊トハ御兄弟ナラスヤ其御兄弟皆合ヲ爲
給フハ則禽獸之又玉依姫ハ 尊不合尊ノ姨之其姨ト皆合爲給フモ
同斷禽獸ノ所業之是ヲ如何ノ禽獸ニ非スト云啓カンヤ其ハ神代ノフハ
論ノ外ナリト云ヘケレト第一日ノ神カ禽獸ノ道ヲ行ヒ給ヒテハ何ヲ以テ道
ヲ道ト爲ヘキヤ神代ハ正シ人ノ代ト爲テ道ヲ失フトアレハ聞ヘタリト云ヘケ
レト肝心ノ神代ニ道ナシト爲時ハ神ハ人ヨリモ不法ノモノカ此理如何センヤ
加之三部ノ神典凡テ神変不測ノ文勢ナレハ何レニ脩身齊家治國平
天下ノ道アルヤ肉眼ニハ是ヲ觀ルテ不能偶神典ニ道アリト云者アレハ
天子ノ御系圖ニ拘ル逆用ヒス然レハ前件ノ筋ヲ推徹シ異國ノ道ヲ以
テ國政トシ國道ハ國政ノ外ノモノトメ風流人ノ持稱而已ニテハ實具ニ
有ル甲斐モ死モノ之斯ノ如ク國政ニナラサル道ト爲行隨次第ニ神道

王道俱ニ衰フルハ左モ有シカシ然レハ行々猶以テ 王宣衰廢爲而已テ
日出ノ期ハ有ヘカラス何共歎カハ敷至リナラン道顯レサレハ何ヲ以テ
天子ノ御威光ヲ耀サンヤ夫神トハ天地ノ活用ヲ云人ニ在テハ心ノ活用ヲ云
何レモ目ニ見エス依テ神ニ去レハ天地ノ神ニモ邪正アリ其邪ハ屈之其伸
ナリ人ノ心ニモ邪正アリ其邪ハ惡之正ハ善之諸神代トハ形ナキ心ノ千変
万化ノ活用天人唯一ノ理ニ神号ヲ配シ勸善懲惡ヲ爲ニ人心ヲ天地ノ活
用ニ填^{アテ}天地万物同根同體ノ理ヲ徴シ天人唯一ノ道ヲ以テ万代治國安
民ノ法ヲ制^サメ給フ道書カ國道神代ノ卷之此道書ハ 羽明王ノ御祖王
ノ御心徳 瓊々杵尊ノ御制度之最モ異邦ノ仁義禮智孝悌忠信
等是統テ心ノ符牒之國道ノ上カラ云時ハ心号之斯國異ナレハ互ニ符
節ヲ合スカ如ク同シ符牒ヲ符牒ト爲ニ至ラス故ニ神代ノ神号多ク
心ノ符牒ト知ルヘシ去レハ心カ神ナルニハ虚空ヲ飛行シ或ハ无戸室ノ
火ニモ入海宮ノ水ニモ入ル之又兄弟及ヒ姨甥皆合モ爲之又一人ノ力ニテ

天下モ持之凡^レ心ハ力量等ニ至リ人躰ノ力量トハ異ルモノ勿論天地ト雖
靈妙ノ活用人心同躰ヲ神ト云ナレハ神変不測ハ竭スヘカラス併定理ナレハ
奇ト爲ニモ足サルヘシ去レハ 羽明王ノ御祖王及ヒ三十二臣ハ有形勿論之余ノ
神達ハ多ク心ノ配當ナル義ハ斯ノ如シ既ニ 瓊々杵尊タニ 羽明王ノ
御祖王ノ御心ノ符牒ナルヲ以テ知ルヘシ此焉ニ神代ト 人皇トノ差別ハ如何
ト云ニ如此道ヲ啓^レ給フ 羽明王ノ御祖王ノ御德國ニ元レハ招カスノ人氣
嚮テ万民仰キ奉ル 尊ノ寶位ハ則動キナキ天ノ磐座ニ但シ開闢ニ人
間氣化シ其氣化ヨリ體化シ其ヨリ體化々ト相續スル 尊ノ玉體モ諸
人ト変リ給ハスト雖及ヒナキ御心ノ徳高キ 天子ニ在座御氣脉ハ天津
日嗣ノ 皇孫瓊々杵尊ナレハヨリ三十二臣及ヒ八百万ノ民等守護爲ナレ
是 尊モ御心臣民モ心其御心ニ心カ八百万纏ヒ奉ル之此ハ御心ノ天子ノ
御徳之然^レ氏元 尊ノ玉體カ天子ニ非ス大道ノ御修行御練磨カ
累リナク高ク昇ラセテ日ノ神ノ徳ニ至リ給ヒテ御心カ 日嗣ノ皇子ニ

生レ給ヘハ 天子ニ爲給フニ在斯尊キ 日嗣ノ氣脉ヲ 神代卷ニ其
傍ヲ移シ給ヘハ神代卷ハ 天津日嗣ノ道書ニ斯ノ如ク 羽明王ノ御
祖王ノ御心徳 瓊々杵尊ヲ以テ天下ヲ統御爲給ヘハ天下ハ形ニ備
ハラス心ノ高キ修行ノ徳ニ備ハル位ナレハ末代ノ 天子瓊々杵尊ニ
神壽限りナキ所ヲ以テ神代ト云之於是百億万歳トアリテ今則神代
ナリ加之 羽明王ノ御祖王ノ御心徳開闢ノ天爵ノ王位 瓊々杵尊ヲ
代々ノ 天子兼繼セ給フ御心徳則神代之在斯神代ハ形ニ拘ハラス心ノ活
用玄妙ニ至ルヲ以テ神代ト云々ナルヲ知ルヘシ 神武天皇ハ父ノ
帝ヨリ授リ給フ人爵ノ王位ナレハ 人皇ノ 天皇之此ハ天爵ト人爵ト
ヲ次第ノ神代ト 人皇ト差別爲之但シ 羽明王ノ御祖王ヨリ天津
日嗣ヲ 神武天皇兼繼セ給フ神秘ハ恐レアレハ廣ク此焉ニ顯シ難
シ既ニ 鷓鴣草葺不合尊ノ神壽八十三万六千四十三歳モ神代心ノ壽
ナレハナリ其ハ善ト云モ心ナレハ天地アラン限り善ノ壽ハ竭ヘカラス是ヲ

八十三万六千四十三歳ト云シモ相同シ去レハ 御太祖 瓊々杵尊ヲ入レス
神武天皇ヲ 御祖ノ神トノ御歴代ヲ算ルハ如何ト云ニ 瓊々杵尊
御一代カ神代ノ卷ニシテ其神代卷ハ 羽明王ノ御心徳ノ 瓊々杵尊ヲ云
之故ニ此體ヲ代々ノ 帝ノ御胸中ハ咫ノ鏡ニ移シ寸分
瓊々杵尊ニ相違ナケレハ其移シ奉ル 瓊々杵尊カ日嗣ノ皇子ノ天子
ニシテ玉體カ天子ニ非ス故ニ代々ノ 天子悉 瓊々杵尊ト爲テ天津
日嗣ヲ治召記之依テ 瓊々杵尊ノ神壽百億万歳ナルハ世アラシ窮リ
ノ天子既ニ 瓊々杵尊ノ一代ト云之ハ前ニ云所ノ如シ於是万代
帝ノ御胸中ハ 瓊々杵尊ノ神代ニ傳國爲給フ 神武天皇何
天皇ト算フ 人皇ノ初代ナレハ 人皇ノ御祖ノ神ト云ソ稱ヘ 神皇ノ
御祖ノ神ニ非ス然ルヲ神道地ニ墮テ以來ハ 御心ノ神代ヲ云ス
玉體カ貴キ 天子ト代々ノ隨道カ降レハ降ルニ殉ヒ次第ニ
王室ノ衰廢ハ是非ヲ云ヘカラス何年ノ世カ神代卷ハ 天津日嗣ノ道書

ナリト云フ上ノ鏡ニ移リ神代ト合セ鏡ノ御修行御練磨アリテハ咫ノ
鏡ノ 王位ヲ普天ニ耀ハ異端ノ星光大陽出テ隠ル、如クナラン借觀
トハ心ノ眼開テ觀ル之既ニ上古天ノ目一ノ神アリ此ハ道ノ修行成就ノ
所謂悟道徹底シタル人ヲ云再此目一ハ天地ヲ一目ニ觀徹シ前後万
年ヲ觀徹スト云心眼之然レハ觀ヲ皇國ニ於テハ天ノ目一ノ神ト云ニ
係ル觀ノ廣太ナル徳ヲ修行未熟ニシテ未ダ迷ヒノ蹄ヲ脱ス肉眼其任
ノ凡庸ノ下拙カ身トノ何ヲ觀見ノ論ヲ云ニヤ然ルヲ表題觀見ノ
二字ヲ置ハ全ク菅公ノ觀ヲ准據トノ觀見ノ得失ヲ論スル之ナリ
其ハ菅公ノ御辞ニ云今日ノ父母ハ伊奘諾伊奘册ノ西尊此身ハ天照太
神云是觀ノ御見識ナリ是ヲ見ノ肉眼ヨリ論スル時ハ菅公ハ
天子ノ御系圖ヲ破ラル曲者之何者伊奘諾伊奘册尊ハ日ノ神ノ父
母ノ神ニ然ルヲ我人ノ父母ト云ルハ何ヲソヤ余リ勿躰ナキヲナラン
又日ノ神ハ天日ニテコソアレ我身カ 天照太神トハ何ヲ准據トノ云ル、

ナラシ此ハ三部ノ神典ニ見エス方々以テ不法ノ談ニ加之第一 上ヲ恐レス
天子ノ御系圖ニ拘ル義ニ以テ外ノ曲事ニト自ルヘシ是ヲ觀ヨリ論
スル時ハ伊奘諾伊奘冊ハ誘引誘引ト云訓ニ陰陽活用ノ稱ナレハ
非情有情ニ拘ラス陰陽ハ悉伊奘諾伊奘冊之何ソ日ノ神ノ父母ノ神
ヲ而已伊奘諾伊奘冊ト云ンヤ又人ニ限ラス有情ノ品物體ノ暖キ火
ニテ其日カ有情ノ魂ニ此魂ヲ日ノ神ト云モ之是等何レカ是ナラシ知ラ子ト
神而已火ト思フハ理ニ闇キト云モノ之是等何レカ是ナラシ知ラ子ト
觀ニアラサレハ天下ノ道ニ非ス如此云海月ノ下拙ハ帝海老ノ眼ヲ便リニ
觀ノ論ヲ立ル之此ハ偏ニ菅公ノ觀ノ御見識ニ繼ル所ナリケラシ

日本書紀神代根國史卷之一

日本書紀卷第一

日本トハ彌實ノ訓之凡テ陰陽錯綜ノ綾ヲ彌實ト云夫陽ハ天
陰ハ地之其陽光地ニ降レハ地氣天ニ昇ル是天地ノ陰陽錯綜之此錯
綜ノ綾ノ彌實カ万物ニ化ス之故ニ其化ス所ノ万物陰陽男女雌雄咸ナ
已々ニ備ハル錯綜ノ彌實ヨリ體化ス則万物天地ノ道ヲ行フ唯一神道
ナリ斯ノ如ク天地ノ道ヲ及ホス彌實ノ根元天地ノ彌實ナレハ其彌
實ヲ法トシ羽明王ノ御祖王道ヲ開キ給フハ繼天立極給フ謂彌實ノ
日本タル國号ニ著明シ最モ尊ノ御道ハ彌實ノ二字ノ外ナシ去レハ
彌實ノ二字千變万化スル活用ノ綾ヲ以テ治國安民ノ政事ヲ制給
フ其由先ツ人ハ万物ノ長タリ男女ノ實情彼ノ錯綜ノ綾ノ彌實ヨリ

子孫相續ス出タキ弥實ノ國ナラスヤ又王民ノ錯綜ハ王ノ仁慈ノ誠實
民ニ降レハ民ノ誠忠王ニ昇ル然レハ王ノ御胸中ハ民ヨリ外ナシ民ノ胸中ハ
王ヨリ外ナシ斯思ト思フテ憂身ヲ省ス上下錯綜ノ綾ノ弥實ハ民ニ事
アラハ王身命ヲ拋給ヒ王ニ事アラハ民命ヲ捨ツ是天下ノ勇ヲ則神武ニ
斯ノ如ク王民ノ和合ハ夫婦ノ和合ニ聊異ナラス此焉ヲ指テ弥實ノ國ト云
故ニ弥實ト云訓ニ後漢字ヲ填ルニ大和ノ二字ヲ以テス此ハ彼ノ和合ノ謂ニ
但シ大ハ称美ノ称和ハ厩戸ノ皇子ノ十七憲法ニ道ハ以和爲貴云又倭
ノ字ヲ填ル倭ハ倭^{ヒトリ}倭^{ヒトリ}倭^{ヒトリ}文^{ヒトリ}訓^{ヒトリ}ス倭ハ一人ナリ一人ハ最ノ意ニテ日取ハ生ル
其日ヨリ日ヲ取始テ何歳ト算ヘ來ル然レハ日取ノ初ハ赤子ニ非スヤ其赤子ノ
心ハ貴賤ニ拘ラス天心ノ一人ニ去レハ弥夫婦ノ和合ノ弥實カ形ニ顯レタル所
ハ赤子之故ニ赤子ヲ弥實ト云ハ小人タル倭ノ字ヲ填ル之又其意ヲ日本ト
填ル之其ハ此體ノ暖キハ火ニ此火ノ元ヲ索ルニ小兒之其小兒ノ元ハ胎内ナリ
其胎内ノ先ハ彼ノ礫取盧島之其礫取盧島ハ自凝^{カクツク}雨ト云フテ夫婦

ノ一元水之其一元水カ父母ノ弥實ニノ弥實ハ火ノ元之其火ノ元ハ此體ノ暖キ元
ナリ是ヲ火ノ元ト云火ノ元ハ弥實是ニ然ルニ日本ノ字ヲ填ルハ日輪ノ生レ給フ
本モ同断陰陽和合ノ弥實ヨリ生レ給ヘ其唯一ノ理ヲ以テ日本ノ字ヲ填
ル之猶王民錯綜和合ノ弥實ハ王天地同體ノ御道德高キ高天原ノ
氣脉日ノ神ノ皇子タル天子ニアラサレハ陽光ノ地ニ降ル如ク民ニ仁慈ノ降ラ
サルニ陽光ノ地ニ降ル如ク民ニ仁慈ノ降レハ地氣天ニ昇ル如ク民ノ誠忠王ニ
昇ルテ天人唯一ニ此唯一ノ和合ノ弥實ヲ諸侯行フ時ハ其國治リ大夫
行フ時ハ其家治リ庶人行フ時ハ其身脩ル之在斯ハ弥實ト云之ハ道ノ
本元ト云之故ニ方代尊ノ御孫々天津日嗣ヲ此弥實ニ治召ハ常磐
堅磐動キナキ天磐座タル實位ナラン去レハ如此貴キ道ノ本元ノ弥實
ニ未代方代万民ヲ止メ給ハニ由緒ヲ以テ國号ヲ弥實ト爲之テ時日本
書紀トハ傳國ノ王ニ此弥實ヲ讓リ給フ天津日嗣ノ道書タルニ倚テ表
題ヲ日本書紀ト古傳ヲ准據トメ親王ノ填給フ意味ノ深長ヲ知ルヘシ

猶ヤトトハ山跡又山止又山戸又矢的等ノ説アレト彼ノ腰痛ノ杜撰ニノ
取ニタラス書記古キヲ見ルノ縮ニ又含ムノ中畧ナトアレトアシ、卷ハ卷舒ルノ
多之筭ハ續キ行一手續キ行クニ手ト九ツニ至ル次筭ヲ云一ハ一卷二卷ト
記ス數ニノ深キ意味ナシ

伊奘諾尊伊奘冊尊立於天浮橋之上共計曰
底ソコニ下タラシ豈無國歟アニナラフニ迺以天之瓊モテアマノ矛トホコヲ
此云努指下而探サシオロシ
之是獲滄溟其矛鋒滴瀝之潮凝成一島名之
曰礮取盧島二神於是降居彼島因欲共爲夫
婦ハハシ產生洲國便以礮取盧島爲國中之柱柱此

而陽神左旋陰神右旋分巡國柱同會一

面時陰神先唱曰喜哉遇可美少男焉少男此云

陽神不悅曰吾是男子理當先唱如何婦人反

先言乎事既不祥宜以改旋於是二神却更相

遇是行也陽神先唱曰喜哉遇可美少女焉少

此云焉因問陰神曰汝身有何成耶對曰吾身

有一雌元之處陽神曰吾身亦有雄元之處思

欲以吾身元處合汝身之元處於是陰陽始構

合爲夫婦及至產時先以淡路洲爲胞意所不
快故名曰淡路洲廼生大日本豐秋津洲本日
云耶麻騰次生伊豫二名洲次筑紫洲次雙生
下皆效此隱岐洲與佐度洲世人或有雙次生越洲次生
大洲次生吉備子洲由是始起大八洲國之號
焉卽對馬島壹岐島及處處小島皆是潮沫凝
成者矣亦曰水沫凝而成也

是日本書紀ノ竈端之其ハ此章羽明王ノ御祖王ノ王體ノ舍リ給フ

所ニ道ノ草創之其道ハ天津日嗣ノ御氣脉之最モ御代々ノ大王ノ御血脉
此焉ニ始ル之去レハ尊御降誕以前人間氣化ノ開闢ヨリ凡十七八代
ノ間勿論道ナシ故ニ荒鴻草昧ノ世之在斯世ニ尊御降誕在座肇
テ道ヲ啓發給フ神聖現レ給フハ實ニ仰クモ余リ有ル御事ニテ是ヲ
コソ奇妙氏不測氏云ヘケレ但シ此章洲産トテ洲ノ生ル、記ハ非ス洲ニ譬
諭ノ御祖ノ神皇王御降誕ノ多之熟々三部ノ神典ニ准據テ是ヲ闕闕ニ
先万物ノ化スル天地錯綜ノ綾年々等シカラス時候微妙ノ差千変万化
ニノ竭スヘカラス此綾則万物ノ親ニノ親ノ訓綾之コノ万化ノ綾殊ニ人
間面ノ拾然カラサルモ彼ノ綾ノ万化之然レハ人間心ノ拾然カラサルモ面ノ如
ナリ斯万化スル時候ノ最上前後万年ニモナキ美氣ヲ自然ニ稟給フ
御徳ナルユヘ質ニノ道ヲ悟リ給フ之是世ニ倫ヒナキ珎ノ皇子ニテ神皇
王ノ御心徳ヲ瓊々杵尊ト稱奉ル之其ハ美玉ノ稱美之猶尊号ノ委
曲ハ下ニ云リ又皇孫氏稱奉ル其皇ハ清氣ノ訓ニノ御質ノ清陽ナ

ル^レ天ニ拾然故ニ皇孫^ニ称奉ル^ニ如此自^レ人ノ司ヲ天ヨリ授リ給フ御
形ハ下界ニ生レ給フ羽明王ノ尊ノ御心彼ノ御氣脉ハ清陽ノ御實備^レ
伊奘諾尊天伊奘冊尊地トナリ此兩尊天地ノ魂日ノ神其日ノ神ノ
御活用吾勝尊其吾勝尊ノ皇子瓊々杵尊ト相兼爲^レ之在斯高
キ御心カ降臨在ル^レ義ニテ皇孫玉體ノ儘高天原ヨリ此土へ降臨爲給
フ^レ義ニ非ス斯ノ如ク天地ニ一人ノ皇子ナレハ吾皇孫ノ尊ヲ以テ豊葦
原ノ水穗ノ國ヲ安國ト平^タ所^タ知食ト事依シ給フ天ノ御事依シハ
宜ナラシカシ故ニ玉體ノ羽明王尊胎内ニ告リ給フ耶以^レ不^レ大日本國ヲ授リ
給フ^レ彼ノ清陽ノ御實ニ倚モノ之依テ此章洲産ハ胎内二百七十音ノ
間ニ尊ノ玉體成就ノ謂ナルヲ辨フヘシ御降誕ハ日ノ神出生ノ章^ニ
御幼年天心ノ日ノ神ノ間ニ天文造化ヲ悟リ給フ旨黄泉ノ章^ニ灼焉^{イナレシ}
然^レノ天文ノ道ヨリ三サノ三季五帛ノ五節ヲ領テ天理ノ妙用ヲ人道ニ
配ノ勸善ノ道ト爲給フ是ヲ劔王ノ誓約ト云然^ルニ世ハ常闇ノ人氣

荒鴻草昧^ニ於是羽明王ノ尊道ノ日照ル天下ニ爲給シノ御^ニ在願アリテ
粉骨碎身ノ御勞モ卒ニ事遂給ヒテ今云大和國高市ノ辺リ二三郡ハ
彼ノ常闇ナル人氣ノ磐戸ヲ開キ漸々道ノ日照ル國トハ爲給ヒケリ
則其高市ハ尊御降誕ノ地ナレハ是ハ磐戸ノ章ニ著明シ於是吾國
道ノ開闢ハ神皇羽明王ノ御祖王之如此磐戸開ケテ三十二臣現レ君臣ノ
義ヲ結^ニテ高市ニ神^ニ離^ヲ建^{今云}皇^皇八十五^皇籙ノ掟ヲ制^サ給フ則心ノ御柱
是^ニ之儲其心ノ御柱トハ道ニ數多神号ヲ播^メ心ノ符牒ト爲勸善懲
惡ノ法^ニ如此云所ハ外ニ非ス仁義礼智孝悌忠信ノ理ヲ得ス^レ經書
ヲ讀^レ何ノ益カアラシ此^ニ焉神書ヲ讀^レ斯ノ如シ八十五^皇籙ヲ知ラ^レ
如何テ神書ノ玄妙ヲ知シヤ於是八十五^皇籙ノ掟ノ中心ノ御柱ノ分^ニ摘^レ此^ニ
云^レリ夫^レ理ヲ言分ト訓^シ事ヲ業ト訓^ス業ハ爲^レ我^ノ訓^ニ之物ハ水根^ニ
形アルモノ水ニアラサル^トナシ斯ノ如ク和訓アルハ理事物ノ教アル^ニヘナリ
其ハ理ヲ第一ニ道ト号ク亦ハ天^ニ高皇產靈尊^ニ云^レ之則万人同一^ニ

蓋羽明王ノ御祖王ノ御胸中空直ニ天ニ人ノ心ノ闇ヲ照シ給フ御徳ヲ日ノ
神ト称奉ル加之是ヲ氣心ニ魂ニ吾勝尊ニ云之次ニ國常立尊ト号ケ
高皇產靈尊ト号ク此ハ万人同一之別ニ羽明王ノ御祖王ノ事ノ御徳ヲハ
月神素尊ト称奉ル之次ニ物ハ體ニ體ハ地ニ地ハ血ニ意ニ魂ニ於是豐葦
原ノ瑞穂ノ國ト号ケ亦ハ天ノ御中主尊ニ神皇產靈尊ト号ク是モ万
人同一之別ニ羽明王ノ御祖王ノ物ノ御徳ヲ體ヲ蛭子尊ト称奉ル之去レハ
三十二臣ノ理ハ天之氣心之魂ニ事ハ國常立尊ニ高皇產靈尊ノ瓊々杵
尊ニ思兼命ニ物ハ體ニ體ハ地ニ地ハ血ニ意ニ魂ニ故ニ飯豐葦原瑞穂ノ國
ニ云之亦ハ天御中主尊ニ神皇產靈尊ニ栲幡千千姫ニ云之次ニ飯齋ノ
夷人酋長ノ族ノ理ヲ天ニ氣心ニ云之事ヲ國常立尊ニ高皇產靈尊
ニ事代主命ニ云之物ハ體ニ體ハ地ニ地ハ血ニ意ニ魂ニ故ニ大己貴命ニ少彥
名命ニ天穗日命ニ天稚彥命ニ云之次ニ飯齋ノ總夷人ノ理ヲ天ニ氣心
心ニ云之事ヲ姫蹈鞞五十鈴姫命ニ事勝國勝長狹ニ大山祇命ニ木花

開耶姬命ニ火ノ闌降命ニ火火出見尊ニ火明命ニ豐玉姬命ニ玉依姬
命ニ鸕鷀草葺不合尊ニ云之物ハ體ニ體ハ地ニ地ハ血ニ意ニ魂ニ故ニ大
山祇尊ニ豐玉彦命ニ云之斯ノ如ク理事物ノ活用陰陽ニ縮リ陰陽錯
綜ノ綾誠一ツニ縮ルヲ弥實ノ國ト云是國道ノ體ニ去レハ此章書紀
爰端ナレハ斯神書ノ捌方ノ傳ヲ此焉ニ擧テ解シ易カラシム就ハ此理
ヲ推テ自得爲給フヘシ偕此章浮橋ヨリ日ノ神出生ノ章迄ハ尊崩御
ノ後三十二臣達ノ賀ノ詞ナラント年來疑惑爲ツルカ漸々思ヒ得タリ
其ハ凡テ勅之何者各父母交合ノ浮橋滴ル所ノ零母ノ子宮ニ止ル耶
以不生涯ノ善惡此焉ニ一定ノ天下ヲ統御爲給フ君ハ胎内ニテ形ヲ爲ル
形ハ洲國ヲ爲ルニ拾然シ洲國ヲ産ニ拾然又稗ニ成人ハ胎内ニテ稗柱ヲ
造リ稗柱ヲ産ニ等シ外ニ差万別咸斯ノ如シ然レハ交合ノ時日程大
カナルハアラシ是道ノ第一慎ノ根元之故ニ浮橋ノ章ハ尊御自身ノ
美質ヲ自慢シ給フ爰ニ非ス第一道ノ本ニ立ツ斯ノ如キ道ヲ誠メニツハ

父母兩尊ノ御慎ミノ深キヲ末代ニ示シ男女ノ道ノ鑑ヲ御形見ニ遺シ給フ
神慮ナラント伺ヒ奉ルニ於テ是神代卷ハ凡テ尊ノ聖意國道ノ龜鑑ナル
モノ之此章ヨリ日ノ神出生ノ章迄ヲ神秘ト稱スル所以ハ交合ノ委曲ナレハ
其ハ交合ノ委曲ヲ君臣父子ノ中ニ廣クスル時ハ禮ヲ失フ悼リアリ故ニ神
秘ト稱ス既ニ男女其根ヲ慙隱スハ禮ヲ守ルカユヘ然レハ此焉ニ註ヲ播ス
ハ禮ヲ失フニ似タリト雖云ハテ止ナハ却テ慎ヲ誠ル神慮ニ齟齬セシ歟於是
不得止其傍ヲ移ス見シ人用捨アルヘシ備伊奘諾尊伊奘冊尊ト陰陽ハ
凡テ誘引ヒ誘引フカ天地万物唯一ノ道之則錯綜ニ其綾弥實之其綾ノ
弥實カ和合之其和合カ體化ノ本元ニ道ノ根元ナレハ万事万物ノ父母ヲ
伊奘諾伊奘冊尊ト云此ハ總名之去レハ此章ノ伊奘諾伊奘冊尊ノ神
皇羽明玉ノ御祖王ノ父母ノ神ニ尊ヲ指テ云之尊ハ身ノ事ト云訓之天ハ
廣キヲ指テ云辭ニ誰ニテモ彼ニテモト云カ如シ浮橋ハ形ナキ橋之其ハ
ニ尊互ニ戀ヒ戀ヒ給フ御實情則浮橋之今ヲ以テ譬ハ夫千里ノ旅ニ

在レハ家ニ殘ル婦夫ヲ戀フ心ノ浮橋其千里ニ掛ル夫モ家ニ殘ス婦ヲ戀フ心ノ
浮橋其千里ニ掛ル斯ノ如ク互ニ朝暮止時ナク思ヒ思フ浮橋ヲ渡ル實々カ
取モ直サス弥實之但シ弥ハ重ルノ稱ニテ實々カ重ル心ノ弥實ハ目ニ見エス
依テ神之神國之亦弥ノ委曲ハ三月ノ異名ヲ弥生ト云其ハ此項草木カ弥カ上
ニ重リ生スルヲ云ナレハ弥ハ重ルノ義ニ非スヤ如此浮橋ハ伸セハ千里ニモ万里
ニモ爲屈ムレハ一尺二尺ノ間ニモ屈ムル之其ハ同居スル現在夫婦ノ間ニ近キ
浮橋ヲ以テ悟ルヘシ猶此浮橋ヲ其上ト屈ムレハ合躰之是ヲ日小先ノ橋
ト云口傳但シ橋ハ渡ノ上畧タシ之夕ハ横音之立ハ夫婦ト爲シ其日ヨリ生
涯實情ノ横ニナラヌヲ云底下ハ夫婦ノ底意ナキヲ云故ニ日小先ノ橋ヲ
渡シ兒ヲ索ント欲スル處瓊ハ玉ニテ玉ハ溜ノ下畧此焉ニテハ陰ノ根ヲ云
牙ハ火凝ト云フニテ陽ノ根ヲ云獲滄溟トハ體ヨリ水湧キ溢ルル点ニテ
精ヲ生ノ海ニ滴瀝之潮ハ一元水カ凝滯リ爲ト云之破取盧島ハ自凝
滯ルト云フニテ則一元水ヲ云ニ神降居彼島トハ父母ノ氣血ノ二尊カ子

宮ニ舎リ給フト云々之但シ交合ノヲ契ルト云其契ルトハ父母ノ血カ
ト云フ之既ニ此處ハ父母ノ血切ツテ子宮ニ其氣血ニ尊カ天降り給ヒテ
人體ヲ作爲給フト云々之猶委シク云ハ一元水ト云ハ腎水ハカリトソ
思フメレト然ラス其ハ腎水ノ中ニ含ム氣アリコノ氣ハ譬ハ風ノ如キモノ
其氣ハ天之其血ハ地之其天地タル氣血ハ直ニ誘引誘引ニテ伊奘氣伊
奘血ノ陰陽之然レハ二神於是降居彼島ト云迄ハ人體父母ノ二尊
交合ノ次第ニ二神降居彼島ト云ヨリ以下ハ伊奘氣伊奘血ノ二尊胎
内ニ天降りテ十月ノ成功ヲ爲給フ所ニ共ニ爲夫婦トハ身ト身トノ蔭生ヲ
爲ント云フニテ交合ノ隱語ニ產生洲國トハ形體ヲ作爲ント云々ヲ
生洲國ニ譬諭爲タルモノ之其ハ羽明王ノ御祖王ノ玉體ヲ産ハ六
十餘州ノ國ヲ産ニ拾然ケレハ之去レハ其氣血ノ二尊ノ交合爲給フ狀ハ如何ナル
トニヤ有ント云ニ便以礫取盧島爲國中ニ柱ニ礫取盧島ハ自疑ル
ル水ニテ腎水モ父母ノ弥實感シ合フ雪ノ一滴カ元ニ立テ其ヨリ形體成始ル

其元ニ立テ滴リヲ柱トハ爲之但シ柱ハ走ラヌト云訓ニテ勤キ无キト云々國
中トハ體ノ中ト云々之最モ人壽百歳ノ元斯走ラヌ柱カ體ノ中ニ定ルユヘ
天人唯一ノ活動妙用此焉ニ爲ト云々之陽神左旋陰神右旋分巡國柱同
會一面トハ此文段陽神陰神ハ天人唯一ノ二尊ヲ云其ハ先ツ人カ人ヲ産ニ
非ス天ノ陰陽ニ尊カ産給フ所ニ其産給フ子細ハ彼ノ時候ノ妙用カ胎内ニ
入ツテ人體ヲ作爲給ハスハ争カ人ノカラ以テ作爲ヘケンヤ於是時候ノ元
彼ノ陽神陰神ハ日月ノ左旋右旋及ヒ地氣活動ノ氣水ニ尊ノ妙用之其ハ
日ハ東ヨリ出レハ左旋之月ハ西ヨリ出レハ右旋之蓋月モ東ヨリ出ルトハ雖光
ハ西ヨリ照リ始メテ東ヘ三日月四日月ト次第ノ十五日ハ東ニ出ル之是ヲ右旋
ト云一面ハ例月十五日ノ暮六ツハ日ハ西ニ没セント欲スルニ月ハ東ニ出日月
相對ス是ヲ一面ト云此焉ニ西洋ノ説ヲ以テ云ハ非ス吾神代ノ説ハ地動
ナリ其地動ハ右旋之故ニ日夜潮ハ東流スルニ限レリ純ハ氣ノ左旋スルハ
勿論ニテ則氣水ノ左旋右旋ト日月左旋右旋トノ活動妙合ノ綾カ空

躰ニ尊ノ交合之其綾ナス春秋ノ時候カ胎内ニテ人體ヲ綾ナシ作爲トスル
此焉ノ文段之時ニ陰神先唱曰喜哉遇可美少男焉陽神不悅曰吾是
男子之理當先唱如何婦人反先言乎事既不祥宜以改旋之此段ハ亦元
戾リテ氣血ノ二尊彼ノ時候ノ綾ノ二尊ニ逆ヒテ旋ノ順ナラサルヲ云ナリ其ハ
陰神ノ先唱トハ陽神ニ先達逆ニ旋ル之蓋人體交合ノ時喜サノ餘リ我
ヲ忘レテ忍聲スルヲ喜哉遇可美少男或少女ト云之是ヲ空躰ニ尊
ニ其情ヲ添ルハ文勢之偕天地陰陽ハ順ニ左旋右旋爲ニ胎内舍ル氣血
ニ尊ハ彼ニ反ノ左旋右旋爲ハ則錯綜之在斯人體ハ勿論有情ノ品物ホ
ノ體成就ハ爲スト云フ之此理万事ニ通ノ乘馬ノ術モ馬ヲ右ニ枉
ント欲セハ始メニ左ノ轡ニ當ラサレハ右ハ枉ラレサル之又弓モ先ニ忍ス
ルヲ前ニ引サレハ先ニ忍セス書法ノ懸針モ上逆スル筆ノカヲ以テ下ニ
引サレハ筆法トナラサル如ク氣血ニ尊ノ逆旋ノカヲカトノ生レ出初
聲ヲ忍スル時天地ノ順逆ニ改メ旋リテ以來生涯順ノ左旋右旋ニ

氣血ニ尊カ旋リ給フト云之斯ノ如シト之最系圖ノ天神七代ニ胎内
十月ノ委曲アレハニヤ此章ニハ當逆旋リテ而已擧テ十月ノ間ヲ大概
ト爲モノナラン男子ハ優雄ノ訓スサ通音婦人ハ子弱女ノ訓祥ハ先ト云
フニテ元ト云カ如シ然レハ元ナラス又正シカラスト云意之其正クハ平敷ノ
畧メチシクト云ヘキヲキタ通音メナレハ正シクト云之在斯ハ祥ナシハ常
ナラス不平ノ辞ナルト灼焉亦祥幸相對ス辞之其ハ狹日狹氣通
音ニノ陽ニ属ス辞狹地狹血陰ニ属ス辞ナレハ之於是二神却更相
遇是行也陽神先唱曰喜哉遇可美少女焉因問陰神曰汝身
有何成耶對曰吾身有一雌元之處陽神曰吾身亦有雄元之
處思欲以吾身元處合汝身之元處於是陰陽始適合爲夫婦
云此段羽明玉ノ御祖王ノ御降誕ヲ云其ハ胎内十月ハ氣道ニ
血カ旋リ血道ニ氣カ旋リテ逆ノ旋リ之ケルカ御降誕在座耶以
不初聲ノ呼吸ニ時候ノ活動ノ綾ヲ吞ミ吐キ爲給ヘハ直ニ氣道

ニハ氣カ旋リテ左旋ヲ爲シ血道ニハ血カ旋リテ右旋ヲ爲ス是ヲ改
旋ルト云此焉ニ雌元ハ陰根雄元ハ陽根ナレハ氣血ニ尊ニ陰根陽
根ノ有ルヘキ由ナシ左レト是ニ云氣血ニ尊ノ陰根陽根ハ氣道血道
ノ一ニ其氣血モ如此順ニ旋ル而已ニテハ陰陽ノ綾ナクノ活物ナラサ
レハ此焉ニ又陰陽錯綜ノ昼ハ血道ヲ氣カ押シ夜ハ氣道ヲ血カ押ス
活動錯綜ノ綾ニ倚テ起卧ノ有心无心ノ活用備ハル此陰陽感通妙
合ハ出生ノ初声一定於是陰陽始適合爲夫婦トハ云之及至產時
廻大日本豊秋津洲ト有ヘキヲ先以淡路洲爲胞意所不快云ノ
語此焉ニ狹マリ有ル子細ハ彼ノ初聲ヲ発シ給フ間ナク後産ノ
下ルヲ先ト断リ生ノ字ナキヲ知ルヘシ其ハ淡路ハ淡血ト云フニテ月
水ナリ其月水月々淡ノ如ク下ル血ナレハ斯云之又其淡血止レハ淡
肅ト云其淡肅カ胞ト爲之其胞下リテ後ハ淡血カ乳汁ニ化ス之猶
淡島ノ委曲ハ少彦名ノ章ニ云リ見合セ知ルヘシ去レハ此文段淡血

洲ハ後産ノ胞下リニツイテ諸ノ不淨ノ淡血ノ下ルハ不快トテ汚穢ヲ
指テ云之大日本ハ尊赤子ニ在座玉體ヲ云之豊秋津洲ノ豊ハ
常世ノ中畧豊ノ魚秋津洲ハ開閉ノ活用ヲ云フ開嚙ノ意耳目鼻口
尻ノ開嚙ハ活物ノ常世ニ伊豫洲ハ足ノ一ニ但シ足ヲアイヨト云ハ歩行
ヨシノ縮之古代足ヲアイヨト云辞雲上ニ今猶存ス二名ハ兩足ナレハ之
筑紫洲ハ顔ノ一ニ心盡トテ有思中顯色外ハ顔之隱岐洲ハ左ノ手
佐度洲ハ右ノ手ニ但シ左ノ手ハ置トテ物ヲ押ヘルノ用ニテ君德ヲ備フ
右ハ智トテ万事ノ活用ハ右ノ手ニ故ニ臣德ヲ備フ其ハ左ニ遣ハルレハ越洲
ハ腰之後越洲ヲ分テ三國トス其ハ腰ハ屈伸ノ活用アルヲ以テ越屈
ノ國又伸ノ國ヲ置則加賀能登是之但シ弘仁十四年割越前ノ二郡置
加賀養老二年割越中四郡置能登國云云吳々今ト異之此項古傳ノ
彰カナルト加賀能登ノ國号ヲ以テモ知ルヘシ大洲ハ陰囊之女子ハ子
宮ヲ云吉備ノ子洲ハ陰莖之凡テ大八甫ノ國ト云對馬ハ舌之唾雨

ノ交ナリ壹岐ハ鼻之鼻ハ息ノ出入ノ穴ナリ故ニ息ノ島ト云但シ其舌
タル對馬及ヒ鼻タル壹岐ノ島ハ盡ノ顔ニ属ス島ナリ處々ノ小
島ハ千足ノ指ノ數二十ヲ云潮沫水沫凡凝一元水ノ場リト云ト斯ノ
如ク大八洲國ノ國号ヲ尊ノ玉體ニ配スルニ非ス玉體ヲ國ニ配シテ國号
ト爲タル所以ヲ知ルヘシ其ハ尊御降誕在座ハ直ニ天ヨリ此大八洲國
ヲ玉體ニ授リ給フト云々ナレハナリ又此焉ヲ國産ノ章ト云テ御初
聲ヲ発シ給フ耶以不御惣身ニ改メ旋ル氣血循環シテ五體ノ活
用處々ノ小島ニ至リ一所モ不具ナルトナク國産給フ氣血ニ尊ノ
成功ヲ贊美スル辞ナリ偕是ヨリ頌テ乳汁ヲ召上リ明ルキ方ヲ
御覽アル處日ノ神出生ノ章ナレハ尊御降誕ヲ日ノ神出生ノ章
トシテ云ナレ因ニ伊奘諾尊ノ兒天明玉ハ羽明玉ノ御事ナリト口訣ニ
モ云リ又豊玉凡稱ヘ奉ル則豊ハ常世ナレハ常世ニ道ノ耀ク玉ト申
奉ル交ナリ慎テ御大徳ヲ仰クヘキモノ之

一書曰天神謂伊奘諾尊伊奘册尊曰有豊葦
原千五百秋瑞穂之地瑞此云彌圖宜汝往循之迺賜
天瓊戈於是二神立於天上浮橋投戈求地因
畫滄海而引舉之即矛鋒垂落之潮結而爲島
名曰礮馭盧島二神降居彼島化作八尋之殿
又化豎天柱陽神問陰神曰汝身有何成耶對
曰吾身具成而有稱陰元者一處陽神曰吾身
亦具成而有稱陽元者一處思欲以吾身陽元

合汝身之陰元云爾即將巡天柱約束曰妹自
左巡吾當右巡既而分巡相遇陰神乃先唱曰
妍哉可愛少男歟妍哉此云阿那而陽神後和之曰
妍哉可愛少女歟遂為夫婦先生姪兒便載葦
船而流之次生淡洲此亦不以充兒數故還復
上詣於天具奏其狀時天神以大占大占此云而
卜合之乃教曰婦人之辭其已先揚乎宜更還
去乃卜定時日而降之故二神改復巡柱陽神

自左陰神自右既遇之時陽神先唱曰妍哉可
愛少女歟陰神後和之曰妍哉可愛少男歟然
後同宮共住而生兒號大日本豐秋津洲次淡
路洲次伊豫二名洲次筑紫洲次隱岐三子洲
次佐渡洲次越洲次吉備子洲由此謂之大八
洲國矣

一書曰卜ハ君ノ御傳ヲ國史ト云臣ノ傳ヲ家牒ト云ハ其
家牒ノ中ノ此一書之余ハ倣此天神謂伊弉諾尊伊弉册尊
曰卜ハ天神ハ自然ト云爰之有豐葦原千五百秋瑞穗之地

トハ豊ハ例ノ常世ニ葦ハ青ノ中畧ニシ此葦神秘三草ノ
其一ニ其ハ葦ハ苻レハ又生シ苻レハ又生スルヲ千五百
ノ數ニ限ルヘカラス故ニ生々繁茂ノ稱アリ固リ海辺ニ
生スル草ナレハ旁海産ニ通ハノ色情ノ譬論トス去レハ
子孫生々繁茂スル葦原ノ苻度國ニ宜汝往循トハ伊弉諾
尊伊弉册尊未御幼若ニテ其苻度色情ノ國ニ住給ハス故
ニ天神ノ自然カ追々ニ導キ十五歳ニ成テ漸々色情ノ苻
度葦原ノ國ニ至リ給フニ迺賜天瓊戈トハ天ハ廣キヲ指
辭誰モ彼モト云カ如シ瓊ハ陰根ニ戈ハ火疑ノ謂ニテ陽
根ナリ然ルニ天ノ神ヨリ其瓊戈ヲ賜フト云ハ如何ト云ニ
固リ瓊戈ハ男女ニ備ハルト雖幼若ノ間ハ活用ナシ此焉
十五六歳トナレハ自然カ瓊戈ノ活用ヲ授ケハ則瓊戈ヲ

天神カ授ケ給フ道理ニ是以按ニ千五百ハ數ノ多キ義理
秋ハ稔ヲ云瑞穂ハ年若キ男女ノ瑞々シク而モ行末ノ穂
長キ瑞穂ノ憑シケナル姿ノ國ト云々ナラシ借地ハ國ニ
アラサレハ不通其ハ國ハ垣ノ義理ニニ子通音又垣ハ限
ノ下畧ニ既ニ瑞穂國女十四ヲ淫通四十八月水止中三十三
年ヲ限リト爲義ヲ論ス垣國字近カラシ最瑞穂地多國字ナルニ
此焉地字ヲ垣如何アラシ考フヘシ於是ニ神立天上浮橋投
戈求地因畫滄海而引攀之即戈鋒垂落之潮結而爲島名曰
礮取廬島ニ神降居彼島段ヨリ人體ニ非ス本文如氣血ニ
尊子宮止給ヘル云化堅ハ尋之殿トハ勿論譬論ナレト先ハ尋ハ凡
六間ノ人體上ニテモ夫婦在新家住居仮ナリ窮屈ナキニ斯ノ如ク
一元水含藏スル氣血ニ尊住給ヘル家窮屈ニ非ストノ形容ニ最モ

ハハ甚深ノ意味アル數ナレハ八尋ト云ニ化豎天柱ハ本文爲國中ノ柱ト云レ
異説ニ天柱今云二十四節七十二候一年ノ時候ノ定リ五年勤カサル柱
ヲ云但シ柱ハ走ヌノ訓動キ先ト云辭ニ在斯ハ此焉云天ノ柱ハ何年何月
何日何時何刻ニ一滴水カ子宮ニ止リタル時刻ノ元ニ立テ化豎天ノ柱トハ
云ニ陽神問陰神曰汝身有何成耶對曰吾身具成而有稱陰元者一
處陽神曰吾身亦具成而有稱陽元者一處思欲以吾身陽元合汝身
之陰元云爾去レハ天ノ柱ハ風ノ舍ル時日ヲ極トスト云ナレハ其極ヲ極トシ
天道ノ循環アルニ胎内氣血ニ尊ノ陰神ハ左旋シ陽神ハ右旋シ給ス
既ニ天道ニ逆スルモノニ依此逆則天人錯綜ノ謂其妙合ノ綾ニ倚テ人體
ヲ二百七十五日ニ結フヌヲ示シ給フニ但シ此逆旋ニ付テ考フレハ文義ニ頭
ハレスト雖逆體ナルヲ著明シ後世逆體ノ説ヲ云者先賢未登ノ如ク言
ト雖逆體ノ説ハ既ニ神代ニ斯ノ如シ遂ニ爲夫婦トハ天人錯綜ノ綾ヲ

云先生蛭子トハ先ノ字ニ意味アリ考フヘシ蛭兒ハ早ノノノ水ノ取レルヲ
早ト云其ハ衣類ノ水ノ取レルヲ早ト云潮ノ引ヲ早ト云此外鼻早ト云
便早杯何レモ水ヲ出セル後ハ早クヌ之時ニ此焉云蛭兒ハ臨産時先
水カ下ルヲ蛭兒ト云載葦船而流トハ産前産後ノ不淨ノ下リ物ヲ
捨ルハ場所ニ倚テ海ヘモ川ヘモ流スヘキニ次生淡洲トハ胞ノ下リルヌ之淡
洲ノ赤曲ハ本文ノ註ニ云レハ畧此亦不_レ以充兒數トハ胞ハ胎内十月ノ
用ニテ兒ノ生レテ後ハ捨物ト云ヌ之太占ノ太ハ天道ノ動キ先キ大丈夫ノ
身ヲ云占ハ隨ト云フニ然レハ太占ハ天道ノ任ト云ヌ之ト合ノトハ裏ト云
ヌニテ表ニ顯レサル理ト云フニ合ハ字ノ如シ顯レサル理ニ符フト云意ニ
二神改復巡柱ト云文ヨリ前生蛭兒頭ホヒ尊御降誕在座ト雖淡
辰ノ間初聲ヲ登シ給ハスニ神改復巡柱ト云時初聲ヲ登シ給ハス直ニ
其呼吸ニ連レテ逆旋ヲ改ノ天道ノ如ク氣道血道ノ循環アル次ヲ左ノ

左ノ文段ニ奉タリ陽神自左陰神自右既遇之時陽神先唱曰妍哉可愛少女在陰神後和之曰妍哉可愛少男歎云此ハ本文ノ如シ故ニ前ニ註スルヲ見合セ知ルヘシ然後同宮共住トハ人壽凡百歳ノ間氣血ニ尊此體ニ住給フト云云之但シ宮ノ訓瑞殿中畧ミヤノ生兒以下國産ハ大概本文ノ如クナレト大洲ヲ除キテ淡路洲ヲ入レ隱岐ノ三子ノ洲トスル而已異説之先大洲ノ替リトセハ淡路洲ハ子ヲ産所ナレハ女子宮勿論ナレト男ノ陰囊ニ配スル時ハ子ヲ産縁ナキニ似タリト雖左ニ非ス子胤ハ陰囊ニアル由ヲ論シ給フ神教ト見エタリ隱岐ノ三子洲ハ隱岐ハ君徳置ト云フニテ左ノ子ニ配ス左ノ手譬ハ膝ニ置或机上ニ置テ指ノ活用ヲ遣ハス一ノ腕ニ腕手首ト三段ニ折レル而已是ヲ三子ト云右ノ手ハ智トテ臣徳ヲ備ヘハ万用ノ活用ニハ手ヲ直ニ爲或屈曲指ノ先逆左ノ君ニ遣ハル、无量ノ活用限ルヘカラス故ニ君位ノ三徳ハ既手ニタニ

備ハルト御教授ヲ隱岐ノ三ツ子ノ洲トメ誠ノ給フ主意ナルヘシ余ハ本文ノ如クナレハ本文ノ註ヲ見合セ知ルヘシ

一書曰伊耆諾尊伊耆冊尊二神立于天霧之中曰吾欲得國乃以天瓊矛指垂而探之得礫馭廬島則拔矛而喜之曰善乎國之在矣

天霧之トハ二尊十五六歳氏云頃始テ誓合爲給フ人情ヲ形容シタル傳之天ハ例ノ廣キヲ指ス誰彼ニ拘ハラスト云云霧ハ切ナリ遮ノ畧遠ク見エヌ云去レハ男女氏始テノ誓合ナレハ覺来ナクテ先ノ見通シ付サル点ハ則霧ノ中ニ在ル心持ナルヘシ在新耻カシキヲ霧ニ譬言タル文意之但シ深霧トアレハ幼年ナレ氏淺霧トアルユヘ

二八ノ即頃ナルヘシ其ハ淺霧ハ薄々様子モ朧氣ニ見エル由ナレハ淺霧トハ云之最狭霧ハ淺霧ノ上畧サキリニ欲得國トハ後継ヲ得ント云フ之此外ハ上ニ同シ談ニ猶前後ヲ推テ知ルヘシ

一書曰伊弉諾伊弉册二神坐于高天原曰當

有國耶乃以天瓊矛畫成礮取盧島

高天原ハ後心法ノ段ニ委曲註ス見合セ知ルヘシ但シ僅三字ノ解ナレト容易ナラサル意味アレハ一朝一夕ノ談ニ非ス然ルヲ咸ク此焉奉ンハ却テ碎々シク混雜ノ分リ難カルヘシ故ニ蚤ク其理ヲ解メ此章ノ意ヲ明カニ爲高天原ヲ摘テ述ヘシ去レハ男女筋骨既ニ諧ト何レニ不足ノ所モナク何レニ思ヒノ殘ル隈モナク十分ニ成育ノ彼狭霧モ晴レ

滋壯ニナル狀則高天原ニ當有國耶トハ子宮ニ礮取盧島ノ止ル何時ト定メハ有ヘカラス故ニ此語アリ考フヘシ

一書曰伊弉諾伊弉册二神相謂曰有物若浮

膏其蓋有國乎乃以天瓊矛探成一島名曰礮

取盧島

有物若浮膏トハ色情ヲ云其ハ油ヲ樽ニ入レ其上ニ水ヲ入レタリ凡水ノ下ニ油ノ沈ムモノニ非ス水ヲ入レル耶以不水ノ上ニ浮フハ油ノ持前ニ去レハ人モ慎ミノ場所ニ吃ト慎ミノ水ニテ油ヲ抑ヘタル狀ナレト美人ヲ見レハイツカ慎ミノ水ノ上ニ油カ浮キ出テ如何ニ沈メ狀ノ元モノ之其ハ膚如凝脂トテ若キ男女ノ瑞々シキハ賢ノ精ノ浮ト出

タル膏之其モ老衰ノ上ニテハ惣身ノ膏ノ抜ル任ニ色情モ浮フヘカラサ
レ氏若キ間ハ心ニ浮ヒ惣身ニ浮フ膏カ國ニナルト云一書ノ異説ニ

一書曰陰神先唱曰美哉善少男時以陰神先
言故爲不祥更復改巡則陽神先唱曰美哉善
少女遂將合交而不知其術時有鶴鴿飛來搖
其首尾二神見而學之即得交道

陰神先唱曰美哉善少男時以陰神先言故爲不祥ト此文前
々ノ如クニノ意ハ大ニ異之其ハ男子ヨリ女子ノ色情付テ早シト云云
譬ハ言名付ノ男女同年ニノ幼年ヨリ家ニ双方成育スルニ早十四五
歳ニ至レハ女ノ方ヨリ男ノ袖ヲ引ケハ男子恐怖ノ振り放シ逃ケリ

是ヲ陰神ノ先言ト云之於是女深ク耻テ其後ハ慎ミアリケルカ男子
十六七歳ニモナル頃是行ハ男ノ方ヨリ女ノ袖ヲ引ケハ苗タキ浮橋トナル
ナリ是ヲ更復改巡ト云之時ニ有鶴鴿飛來搖其首尾二神見而學
之即得交道トハ鶴鴿ハ稻負脊鳥ト云テ神秘三鳥ノ其一ニ但シ
鳥ノ縮子之千ハ血之固リ色情ノ道ハカリ誰學フ者ナン自然ノ年ノ數カ
教ユレハ之其自然ノ年ノ數ノ教ユルハ鳥ノ縮血カ充滿スレハ去レハ鶴
鴿ヲ在斯譬諭ト爲ハ此鳥首尾ヲ搖ス鳥ニ鳥ハ血ナレハ旁ノ縁
アリ其ハ十六七歳ニモナレハ血カ凝テ陰莖ノ首ヲ搖スハ鶴鴿ノ首
尾ヲ搖スカ如シ故ニ色情ヲ教ユルモノハ凝ル所ノ血ハ鳥ニ然ルヲ
鶴鴿ニ委曲ヲ含マセ神秘ヲ顯ハニ云サルハ古代ノ慎ミ深ク禮ノ厚キヲ
知ルヘシ得交道トハ後継ノ
道ヲ得給フト云云ナリ

一書曰二神合爲夫婦先以淡路洲淡洲爲胞
生大日本豊秋津洲次伊豫洲次筑紫洲次雙
生隱岐洲與佐度洲次越洲次大洲次子洲

二神合爲夫婦トハ此二神ハ人體ノ二尊ニ非ス氣血ノ二尊ニ故ニ合爲
夫婦トハ氣道血道錯綜ノ綾ノ妙合ヲ云ニ去レハ尊出生在坐ニ初聲
ノ呼吸ニ逆旋カ天道ノ如ク左旋ニ改マルカ本文一書ノ説ナルカ此一書ハ
其上委シク飲食ノ功ヲ添ヘ五體ニ氣血ノ行ワタリテ活用ヲ爲主意
ヲ論セリ其ハ淡洲ハ乳汁之其乳汁ヲ服ノ體中ニ巡ル靈味ヲ淡血
肅ト称ト見エタリ爲胞ハ胞衣ノ訓生々ノ畧イテ通音故ニ生胞ニ
活用ス隱語ナルヘシ此以下ノ文大同小異ハアレ氏先ハ准例ノ文ニ

一書曰先生淡路洲次大日本豊秋津洲次伊
豫二名洲次隱岐洲次佐度洲次筑紫洲次壹
岐洲次對馬洲

此一書モ上ニ同ク氣血ノ二尊ノ活用ヲ云フ去レハ尊出生在座ノ
氣血カ呼吸ニ連レテ左旋ニ改マル耶以不先乳汁ヲ服ノ玉體中ニ
巡ル靈味ヲ先生淡路洲ト云ニ然レハ五體其々ノ活用ヲ爲何ノ
洲ヲ生ム何ノ洲ヲ生トハ云ニ余ハ推テ知ルヘシ

一書曰以礮馭盧島爲胞生淡路洲次大日本
豊秋津洲次伊豫二名洲次筑紫洲次吉備子
洲次雙生隱岐洲與佐度洲次越洲

此一書以礮取盧島ト云ハ解シ難キ文ニ然レハ逆規律ノ符ハサルヲ何ソ
本文ノ證據ニ親王ノ奉給フヘキヤ去レハ此國産ノ章一事ノ上ニテモ
區々ノ一書ナレハ上ニ准シ人體ノ二尊カト思ヘハ氣血ノ胎内ニテ成功ノ二尊
ナリ又此二尊カト思ヘハ赤子體中氣血ノ二尊之此二尊何レモ伊弉諾
伊弉册ノ同シ訓同シ字ナレハ神典ヲ捌ク系口ヲ辨ヘテタニ如何ニモ
綾組ニ悩ミテ捌キ難キヲ神秘譬諭隱語等ノ傳ナキ輩當
漢字ヲ當ニ神意ヲ啓^{ヒラ}カントスレハ神典ハ斯ノ如キ極秘アレハ
的中ノ解ハ見エサル筈之在斯ヲ如何ノ此章ヲ啓^{ヒラ}カント云ニ先
此一書モ赤子體中ノ氣血活用スルニ尊ノ生給フ洲ヲ云ナレハ
礮取盧島モ子宮ニ舍ル腎水ニハ非ス然レハ礮取盧島トアレハ
優シク腎水之於是按ニ父母傳種ノ腎所謂滑ナルモノ赤子ノ
系絡骨節ノ中ニ通レハ日々化ス五味ノ靈液ヲ誘引ノ惣身ニ

分配スル滑ナルモノヲ指テ礮取盧島ト此一書ニ云フ必定ニ其ハ次ノ
文ニ生淡路洲ト云ヲ以テ知ルヘシ其淡路洲ハ服スル乳汁化ノ靈液ト
ナルヲ云ナレハ之然レハ此礮取盧島カ淡路洲ノ靈液ヲ惣身ニ分配メ
立體其々ノ活用ヲ爲ヲ何ノ洲ヲ生何ノ洲ヲ生ト云フ前々ノ一書ニ
差フフナシ但シ系絡骨節ノ中ニアル滑ナルモノ既ニ命ナレハ礮取盧
島ト云ンモ宜ナラシカシ其ハ傷寒ノ熱ニテ此礮取盧島ヲ燒盡ス
ト僅ニ一旬ノ間ナリト云ハ如此手後レニ及ハ如何ナル良醫モ術ヲ施シ
難シ故ニ傷寒ハ早ク治療ヲ施サレハ斯ノ如キ理ヲ存メ治シ難シ
心得置ヘキトナラシ因ニ此礮取盧島ヲ指テ菅神ノ詠シ給ヒケン
父母^{イ弉}モマニ井ニスノ一尺鏡^{イ弉}志^{イ弉}ノ影ヲ移ス此身ハ猶考フヘシ

一書曰以淡路洲爲胞生大日本豊秋津洲次

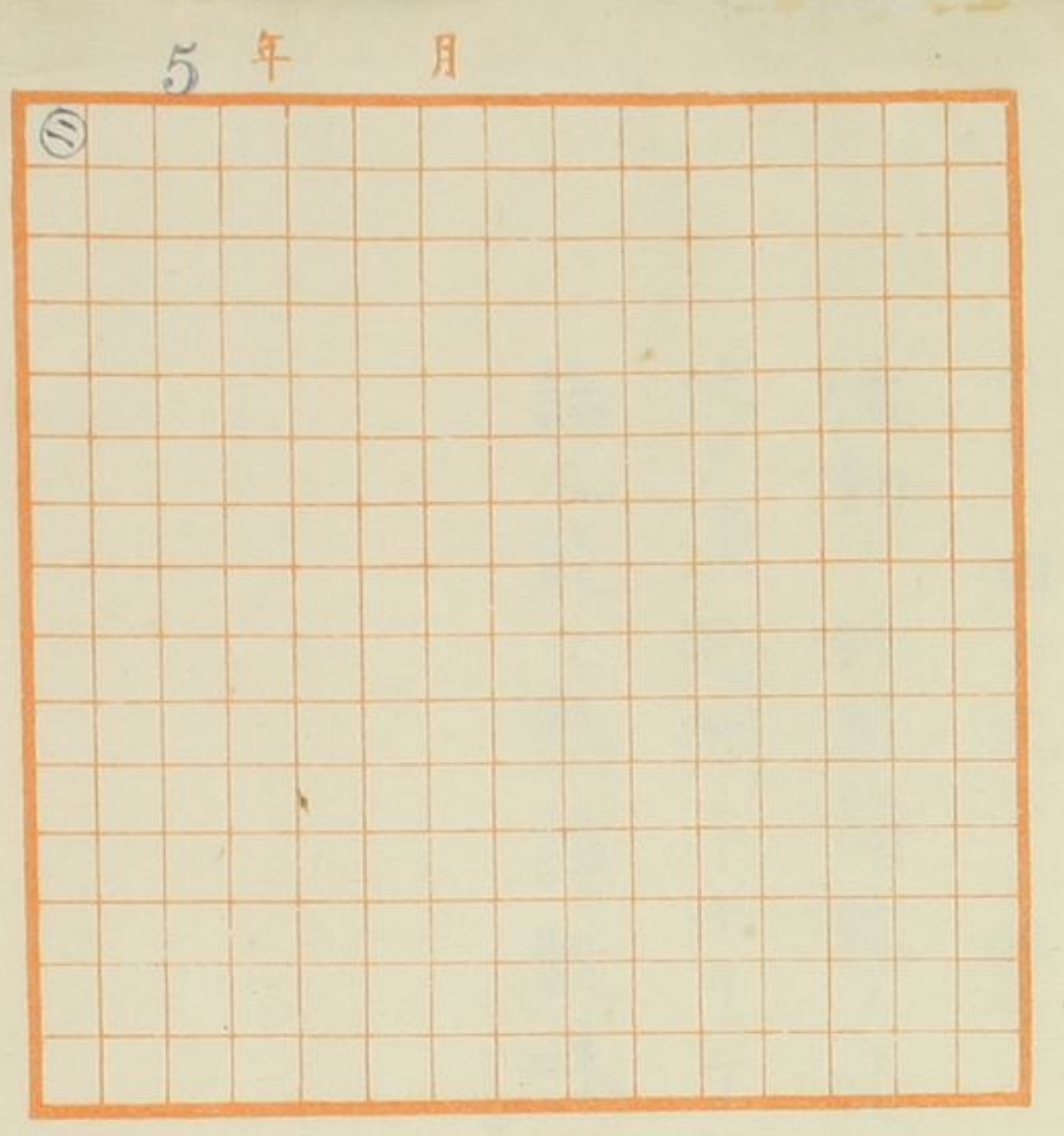
淡洲次伊豫二名洲次隱岐三子洲次佐度洲
次筑紫洲次吉備子洲次大洲

上一書ニ淡路洲淡洲爲胞トアリ此一書ニ淡洲ヲ除キテ以淡
路洲爲胞トアリ其ハ乳味ノ靈液淡血肅ヲ以テ生生則胞ノ訓
生生ノ畧イナニエ通音ノエナトナルニ去レハ大日本豊秋津洲ハ玉
體ノ惣體ヲ云其惣體ヲ乳味ノ生生ヲ以テ弥實ト爲血ノ滋肅
ルヲ淡洲ト云ニ在斯ハ體ノ活用自由ナリテ吉備ノ大小用既ニ通ス
トナリ

一書曰陰神先唱曰妍哉可愛少男辛便握陽
神之手遂爲夫婦生淡路洲次蛭兒

此一書ノ陰神陽神モ赤子體中活用ノ氣血ニ尊ヲ云握陽神之手ハ
陽ニ陰カ縫謂之譬ハ油ハ陰之火ハ陽之其火ヲ止ムルハ油ノ人體ノ上ニテモ
男カ女ニ止メラルニユヘ家脩リ國治ルハ自然ナラスヤ去レハ血カ氣ヲ止

如シ體中ノ氣血ニ尊既ニ在斯自然ノ道アリテ
則爲夫婦ノ活用ニ此活用ニ倚テ服ス乳味
忍身ヲ潤セハ直ニ大小便ノ蛭子通スルト云隱
有ルヘシ



日本書紀神代根國史卷之一 畢

淡洲次伊豫二名洲次隱岐三子洲次佐度洲
次筑紫洲次吉備子洲次大洲

上一書ニ淡路洲淡洲爲胞トアリ此一書ニ淡洲ヲ除キテ以淡
路洲爲胞トアリ其ハ乳味ノ靈液淡血肅ヲ以テ生生則胞ノ訓
生生ノ畧イナニエ通音ノエナトナルニ去レハ大日本豊秋津洲ハ玉
體ノ惣體ヲ云其惣體ヲ乳味ノ生生ヲ以テ弥實ト爲血ノ滋肅
ルヲ淡洲ト云ニ在斯ニ體ノ活用自由ナリテ吉備ノ大小用既ニ通ス
トナリ

一書曰陰神先唱曰妍哉可愛少男乎便握陽
神之乎遂爲夫婦生淡路洲次蛭兒

此一書ノ陰神陽神モ赤子體中活用ノ氣血ニ尊ヲ云握陽神之乎
陽ニ陰カ縫謂之譬ハ油ハ陰之火ハ陽之其火ヲ止ムルハ油ノ人體ノ上ニテモ
男カ女ニ止メラルニユヘ家裕リ國治ルハ自然ナラスヤ去レハ血カ氣ヲ止
ムルハ油ト火トノ譬ヘ如シ體中ノ氣血ニ尊既ニ在斯自然ノ道アリテ
活動ノ妙用錯綜ノ綾則爲夫婦ノ活用ニ此活用ニ倚テ服ス乳味
化ノ淡路洲トナリテ惣身ヲ潤セハ直ニ大小便ノ蛭子通スルト云隱
語ニ能々熟讀既味有ルヘシ

